

生物多様性調査

種の多様性調査 (福井県) 報告書

平成16 (2004) 年3月

環境省自然環境局 生物多様性センター

はじめに

環境省自然環境局生物多様性センターは、全国的な観点からわが国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備することを目的とし、「自然環境保全基礎調査」を実施している。調査範囲は陸域、陸水域、海域を含む国土全体を対象としている。

「自然環境保全基礎調査」は、環境庁（当時）が昭和 48(1973)年より自然環境保全法に基づき行っているものであり、今回で 6 回を数える。一方、近年の生物多様性の重要性に対する認識の高まりにあわせ、平成 6 (1994) 年度より「生物多様性調査」が新たな枠組みとして開始された。

本調査は、「生物多様性調査」の一環である「種の多様性調査」という位置づけで実施され、国内の生物多様性保全施策の基礎となる資料を得ることを目的とし、環境省からの委託を受け、福井県が実施したものである。

本報告書は平成 15(2003)年度に行われた「種の多様性調査（福井県）」についての調査結果をとりまとめたものである。なお、本報告書において、環境省レッドデータブックに記載のある種の詳細な位置データについては非公開とした。

環境省自然環境局

生物多様性センター

も く じ

1 事業の概要

- (1) 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1- 1
- (2) 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1- 1
- (3) 対象地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1- 1
- (4) 実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1- 1
- (5) 実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1- 1

2 調査地の選定方法

- (1) 文献調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1- 3
- (2) 調査対象メッシュの抽出・・・・・・・・・・1- 3
- (3) 調査地案の作成・・・・・・・・・・・・・・1- 6
- (4) 調査地の決定・・・・・・・・・・・・・・1- 7

3 調査の内容および方法

- (1) 調査対象種・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1- 7
- (2) 現地調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-15
- (3) 調査体制と役割分担・・・・・・・・・・・・・・1-15
- (4) 調査手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-15
- (5) 調査項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-18
- (6) 取りまとめの方法・・・・・・・・・・・・・・1-20

4 調査結果

- (1) 現地調査実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・1-23
- (2) 結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-23
- (3) 自主調査地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-25

5 「福井県重要里地里山」の選定と公表について

- (1) 選定について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-27
- (2) 公表方法について・・・・・・・・・・・・・・1-28
- (3) 公表資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-29

資料

- 1 調査対象種一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2- 1
- 2 調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2- 9
- 3 「福井県重要里地里山」一覧・・・・・・・・・・2-23
- 4 「福井県重要里地里山」位置図・・・・・・・・2-25
- 5 「福井県重要里地里山」現地写真・・・・・・・・2-30

参考文献

調査体制

- (1) 調査委員会
- (2) 事務局
- (3) 調査員

1 事業の概要

(1) 目的

里地里山は、農林業など人が自然に手を加えることによって維持されてきた環境である。しかし、近年、里山林の多くは管理されないまま放置され、水田は農業の近代化にともない水路や溜池がコンクリート化されるなど、里地里山を取り巻く環境は大きく変化している。その結果、かつては里地里山に普通に見られたメダカ、ゲンゴロウなどが絶滅のおそれのある野生生物としてリストアップされるまでになった（環境省野生生物課 2003,環境庁野生生物課 1991,福井県 2002）。新・生物多様性国家戦略（環境省 2002）の中でも指摘されているとおり、我が国における生物多様性を維持していく上で、野生生物が生息・生育する里地里山を保全していくことは重要な課題である。

このような状況に対処するため、希少種が集中する里地里山（以下、重要里地里山という）を選定する基礎資料を得ることを目的として、福井県（以下、県）内の希少野生生物の生息・生育状況に関する情報を文献調査および現地調査によって収集した。

(2) 概要

調査および選定は、以下の手順で行った（図1）。

①文献調査による調査対象メッシュの抽出

既存の希少野生生物の分布情報を整理し、その結果を専門家で構成する調査委員会および、県関係各課で構成する選定委員会で検討することにより、現地調査を実施する地域（28箇所）を抽出した。

②現地調査

①で抽出した各メッシュ内で、希少野生生物の重要な生息・生育環境となっていると考えられる地域を絞り込み、当該区域における希少野生生物の生息・生育状況（分布範囲、密度等）について、現地調査を行った。

③重要里地里山の選定

②の現地調査の結果を調査委員会および選定委員会で検討し、重要里地里山の選定を行った。

④報告書の作成

上記①～③の結果をとりまとめ、報告書を作成した。

(3) 対象地域

福井県内全域

(4) 実施期間

平成15年4月25日から平成16年3月15日

(5) 実施体制

重要里地里山選定後の保全施策を部局連携で実施していくため、本事業は、以下の体制で各組織と情報共有を図りながら実施した（図1）。

- ・事務局（県自然保護課および県自然保護センターの職員7名で構成）
文献調査の実施、現地調査・重要里地里山選定の総括
- ・調査委員会（県内の専門家12名で構成）

- 調査地の選定および調査指導、調査結果の検討
- ・選定委員会（県都市計画課、農村振興課、森づくり課、自然保護課で構成）
調査地の選定および重要里地里山の選定
 - ・調査員（調査委員会、その他県内専門家、事務局の計66名で構成）
現地調査を実施

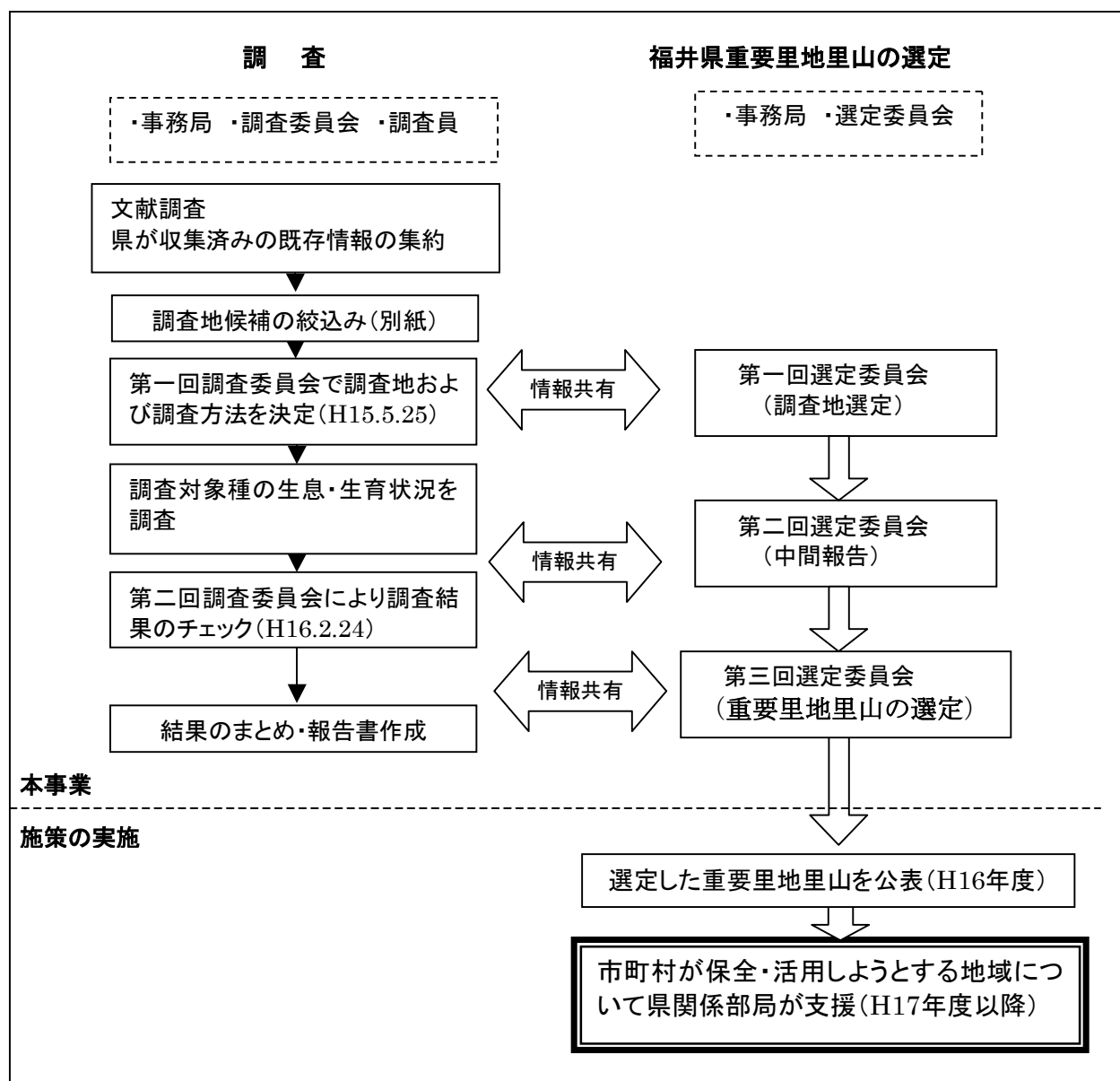


図1 本事業の流れと位置づけ

2 調査地の選定方法

文献調査の結果を基礎情報として、里地里山環境に依存する種、保全の必要な里地里山環境を抽出して調査地候補とした。調査地候補を調査委員会と選定委員会で検討し、修正の上、調査地を決定した（図2）。

（1）文献調査

収集した情報のうち、本事業に適切な文献および情報は以下のとおりであった。

- ・福井県編、福井県レッドデータブック動物編*、2000年発行
- ・福井県自然環境保全調査研究会監修、福井県のすぐれた自然*、1999年発行
- ・環境省自然環境局生物多様性センター、生物多様性調査種の多様性調査集計等業務報告書：都道府県委託調査集計結果、2001年発行(電子資料)
- ・Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）
- ・その他福井県自然保護センターが独自に収集した情報

注）福井県レッドデータブックおよび福井県のすぐれた自然では、掲載種の分布情報は2 km×2 kmのメッシュ（標準地域メッシュ（昭和48年行政管理庁告示第143号）における2倍地域メッシュ、以下2 kmメッシュ）を単位に整理されていた。

（2）調査対象メッシュの抽出

①調査地検討に用いる基礎情報の選定

調査地検討のため、一時的に、県レッドデータブック掲載種（以下、県RDB種）が多く記録されている場所を抽出することとした。このため、調査地の検討過程では、最新情報である福井県レッドデータブック動物編の2 kmメッシュ単位の生物情報と、自然保護センターが独自に収集した情報のうち、県RDB種の分布情報を基礎情報として使用した。

②対象種の絞込

①で選定した基礎情報のうち、里地里山環境への依存度が低いと考えられる以下のような種の分布情報を除外した（表1）。

- ・主に海上で記録される種
- ・主に海岸線で記録される種
- ・主に奥山性の種
- ・主に溪流に生息・生育する種
- ・稀に渡来するだけの種
- （ただし、環境悪化が原因で近年記録されなかった種を除く）
- ・絶滅種（ただし、今後の環境保全により記録される可能性がある種を除く）

表1 調査地選出のために文献調査結果から除外した種

分類	種名	分類	種名		
鳥類	タカ目	イヌワシ	昆虫類	コウチュウ目	サビナカボソタマムシ
鳥類	スズメ目	イワヒバリ	昆虫類	コウチュウ目	ハクサンクロナガオサムシ
鳥類	カモ目	ウミアイサ	昆虫類	コウチュウ目	ルリクワガタ
鳥類	チドリ目	ウミガラス	昆虫類	バッタ目	エゾエンマコオロギ
鳥類	チドリ目	ウミスズメ	昆虫類	バッタ目	ヤマトバッタ
鳥類	キツツキ目	オオアカゲラ	昆虫類	バッタ目	ハネナガクモマヒナバッタ
鳥類	チドリ目	カラフトアオアシシギ	昆虫類	バッタ目	アカハネバッタ
鳥類	スズメ目	キバシリ	昆虫類	トンボ目	ムカシトンボ
鳥類	カモ目	クロガモ	昆虫類	チョウ目	ゴマシジミ(白山亜種)
鳥類	コウノトリ目	クロツラヘラサギ	昆虫類	チョウ目	ゴマシジミ(中部地方亜種)
鳥類	カモ目	シノリガモ	昆虫類	チョウ目	ヒメヒカゲ
鳥類	カモ目	ツクシガモ	昆虫類	チョウ目	ヒメシジミ

鳥類	コウノトリ目	トキ	昆虫類	チョウ目	オオウラギンヒョウモン
鳥類	タカ目	ノスリ	昆虫類	チョウ目	クロシジミ
鳥類	ミズナギドリ目	ヒメクロウミツバメ	昆虫類	チョウ目	ウラナミジャノメ
鳥類	カモ目	ビロードキンクロ	昆虫類	チョウ目	スジグロチャバネセセリ
鳥類	ブッポウソウ目	ブッポウソウ	昆虫類	チョウ目	ベニヒカゲ
鳥類	チドリ目	ヘラシギ	昆虫類	チョウ目	ツマジロウラジャノメ
鳥類	チドリ目	マダラウミスズメ	昆虫類	チョウ目	ムモンアカシジミ
爬虫類	カメ目	アオウミガメ	昆虫類	カメムシ目	ヒメハルゼミ
爬虫類	カメ目	アカウミガメ	昆虫類	カメムシ目	アカエゾゼミ
爬虫類	カメ目	オサガメ	昆虫類	トンボ目	ルリイトトンボ
爬虫類	カメ目	タイマイ	昆虫類	トンボ目	カオジロトンボ
淡水魚類	サケ目	イワナ	昆虫類	トンボ目	カラカネトンボ
昆虫類	シロアリ目	ナカジマシロアリ	昆虫類	ハチ目	ヤマトセイボウモドキ
昆虫類	カワゲラ目	セツケイカワゲラ	昆虫類	ハチ目	ツネキアリバチモドキ
昆虫類	カワゲラ目	<i>Calineuria jezoensis</i> (Okamoto)	昆虫類	ハチ目	アメイロオオアリ
昆虫類	ハエ目	ハクサンシリアゲ	昆虫類	ハチ目	ツノアカヤマアリ
昆虫類	ハエ目	アルプスニセヒメガガンボ	昆虫類	ハチ目	エゾアカヤマアリ
昆虫類	ハエ目	トワダオオカ	昆虫類	ハチ目	アカヤマアリ
昆虫類	ハエ目	ヒゲブトルリミズアブ	昆虫類	ハチ目	ヤドリホオナガスズメバチ
昆虫類	ハエ目	モトドマリクロハナアブ	昆虫類	ハチ目	シモヤマジガバチモドキ
昆虫類	コウチュウ目	ホクリクヒメハナカミキリ	昆虫類	ハチ目	シモヤマギングチ
昆虫類	コウチュウ目	オガサワラチャイロカミキリ	昆虫類	ハチ目	ムロタギングチ
昆虫類	コウチュウ目	ハクサンホソヒメクロオサムシ	昆虫類	ハチ目	タイセツギングチ
昆虫類	コウチュウ目	シナノキチビタマムシ	昆虫類	ハチ目	アギトギングチ
昆虫類	コウチュウ目	オシマヒメ TENTOU	昆虫類	ハチ目	ニッコウツヤアナバチ
昆虫類	コウチュウ目	マガタマハンミョウ	昆虫類	ハチ目	キアシハナダカバチモドキ
昆虫類	コウチュウ目	ヤシャゲンゴロウ	昆虫類	ハチ目	マエダテツチスガリ
昆虫類	コウチュウ目	マダラクワガタ	昆虫類	ハチ目	ミドリコハナバチ
昆虫類	コウチュウ目	マグソクワガタ	昆虫類	ハチ目	タイリクハキリバチ
昆虫類	コウチュウ目	オオチャイロハナムグリ	昆虫類	ハチ目	エサンキマダラハナバチ
昆虫類	コウチュウ目	アオナガタマムシ	昆虫類	ハチ目	ナガマルハナバチ
昆虫類	コウチュウ目	ミスジナガクチキ			

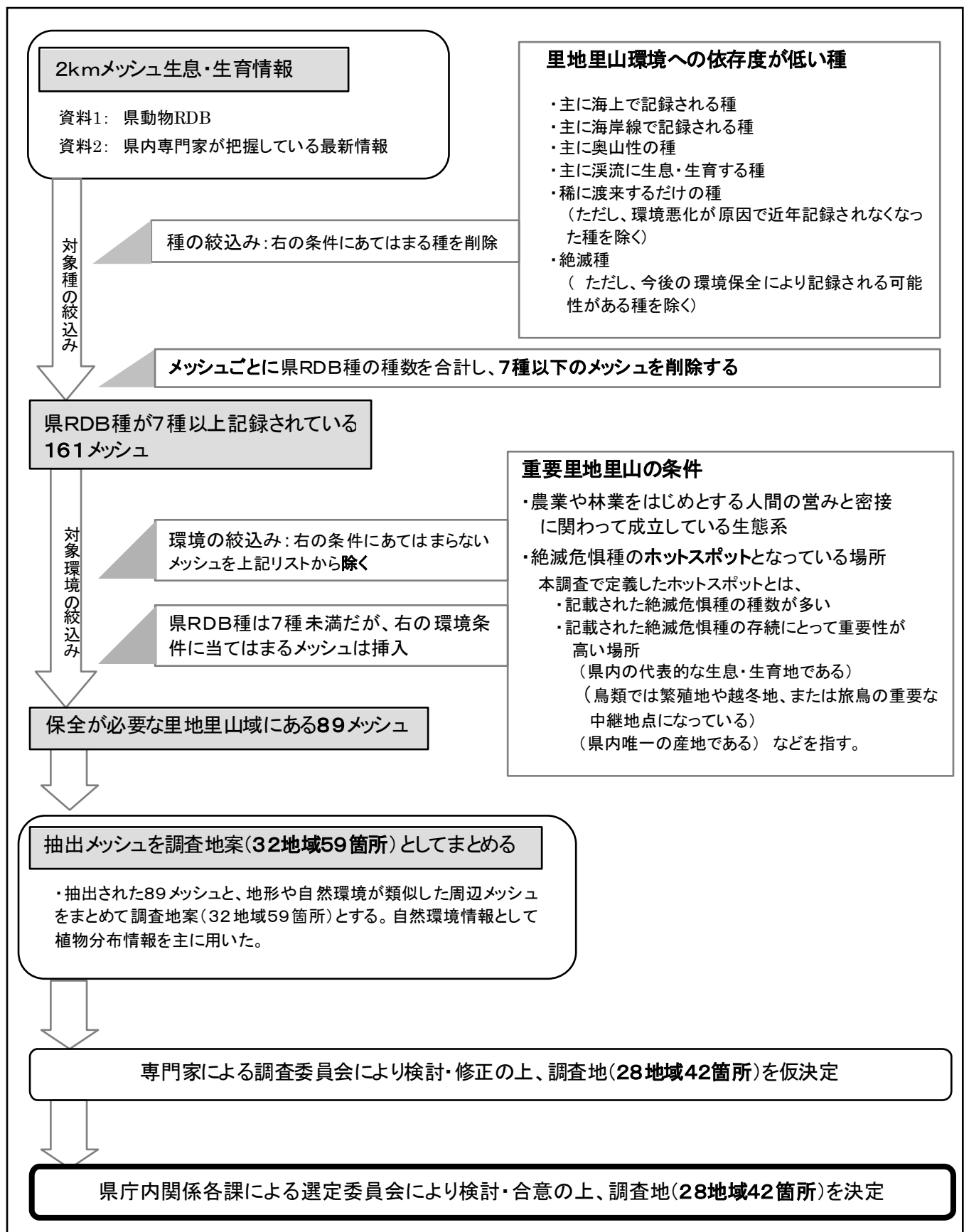


図2 調査地選定のプロセス

③対象環境の絞り込み

対象種を絞り込んだメッシュ情報を、メッシュ番号ごとに整理した。次に、1メッシュにつき県RDB種が7種以上記録されている161メッシュを調査地の一次候補としてさらに絞り込みを行った。(図3)

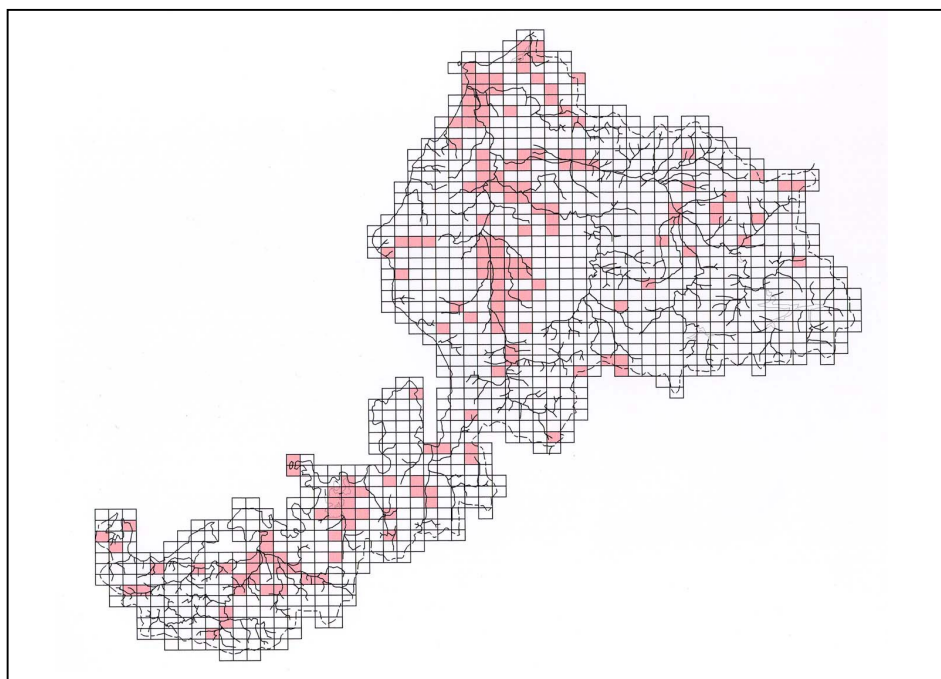


図3 里地里山に生息・生育する県RDB種が7種以上記録されている161メッシュ(2kmメッシュ)。背景は河川図。この時点では、里地里山だけでなく奥山環境や河川環境も抽出されている。

一次候補の161メッシュには、里地里山に属しないと考えられる奥山環境や河川環境も抽出されたため、保全が必要な重要里地里山環境を本調査では次のように定義し、該当する71メッシュを抽出した。

- ・ 農業や林業をはじめとする人間の営みと密接に関わって成立している生態系
- ・ 絶滅危惧種のホットスポットとなっている場所*

注) ここでのホットスポットとは、以下のような場所を指す。

- ・ 記載された絶滅危惧種の種数が多い場所
 - ・ 記載された絶滅危惧種の存続にとって重要性が高い場所
- (例) 県内の代表的な生息・生育地(鳥類では繁殖地や越冬地、または旅鳥の重要な中継地点)、県内唯一の産地等。

また、記録されている県RDB種が7種未満であるものの、鳥類の重要な越冬地や、絶滅危惧種の県内唯一の産地など、保全が必要な重要里地里山環境の定義を満たしている18メッシュを加えた。

(3) 調査地案の作成

(2) によって抽出された 89 メッシュと、周辺の地形や環境が類似したメッシュをまとめて整理し、調査地案 (32 地域 59 箇所) を作成した。なお、調査地案の作成に当たっては、県内専門家から聞き取った里地里山域の生物分布の最新情報を参考にした。

(4) 調査地の決定

調査地案について、県内専門家 12 名で構成される調査委員会および、関係各課で構成される選定委員会で検討し、現地調査を実施する 28 地域 42 箇所を決定した (図4)。なお、本調査が地域住民による保全と活用の継続を見据えていることから、検討の際には、乱獲のおそれがある種や猛禽類の営巣木などを主な保全対象とした場所、自然林など管理の必要がない場所 (ブナ林等)、保全のために立ち入り制限が必要な場所 (湿原等) を除いた。

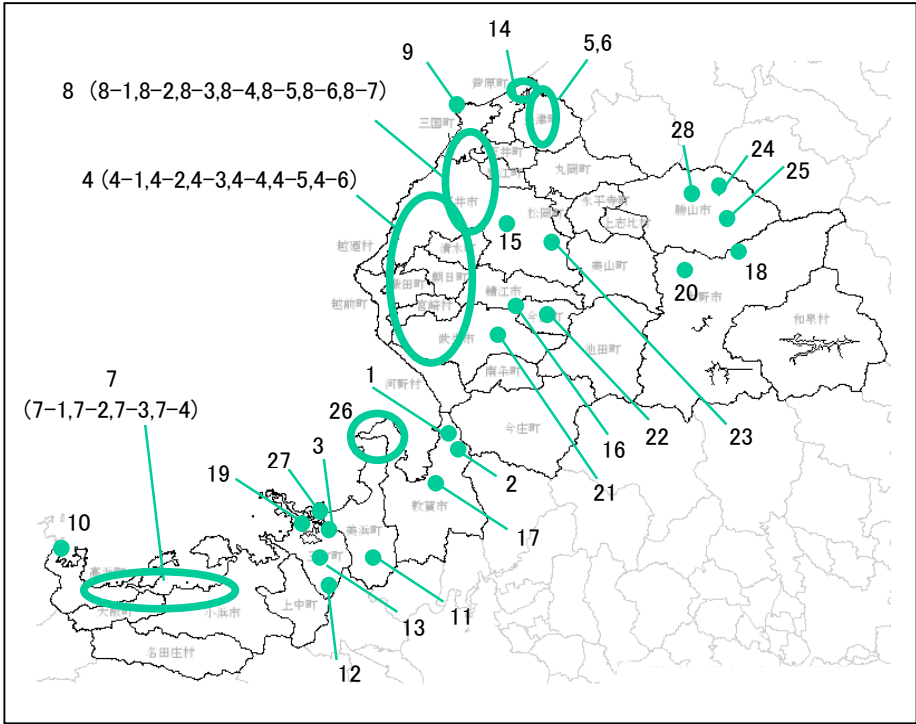


図 4 調査地位置図 (28 地域 42 箇所)

3 調査の内容および方法

(1) 調査対象種

哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、植物のうち、里地里山を主な生息・生育地とする県 RDB 種 (植物は県版レッドデータブック作成中のため RDB 予定種)、および里地里山の環境指標種、指定の調査地・調査期間に付随して記録可能な県 RDB 種を含む 34 種 (亜種変種含む)、藻類の 2 属を調査対象とした。(表 2、資料：調査対象種の詳細、参照)

表 2 調査対象種一覧

分類群	種和名	学名
哺乳類	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i> (Schreber)
哺乳類	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i> Temminck
哺乳類	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i> (Temminck)

哺乳類	ホンドノレンコウモリ	<i>Myotis nattereri</i> (Kuhl)
哺乳類	モリアブラコウモリ	<i>Pipistrellus endoi</i> Imaizumi
哺乳類	ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i> Thomas
哺乳類	ヒナコウモリ	<i>Vespertilio superans</i> Thomas
哺乳類	ニホンウサギコウモリ	<i>Plecotus auritus</i> (Linnaeus)
哺乳類	ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i> (Hodgson)
哺乳類	ニホンテングコウモリ	<i>Murina leucogaster</i> Milne-Edwards
哺乳類	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i> Temminck
哺乳類	ニホンモモンガ	<i>Pteromys momonga</i> Temminck
哺乳類	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i> (Temminck)
哺乳類	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i> (Pallas)
鳥類	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i> (Linnaeus)
鳥類	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i> (Gmelin)
鳥類	オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i> (Swinhoe)
鳥類	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i> (Temminck)
鳥類	ササゴイ	<i>Butorides striatus</i> (Linnaeus)
鳥類	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i> (Wagler)
鳥類	マガン	<i>Anser albifrons</i> (Scopoli)
鳥類	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i> (Latham)
鳥類	オオヒシクイ	<i>Anser fabalis middendorffii</i>
鳥類	オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i> (Linnaeus)
鳥類	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i> (Ord)
鳥類	アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i> (Pallas)
鳥類	オシドリ	<i>Aix galericulata</i> (Linnaeus)
鳥類	ヨシガモ	<i>Anas falcata</i> (Georgi)
鳥類	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i> (Linnaeus)
鳥類	ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i> (Linnaeus)
鳥類	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i> (Linnaeus)
鳥類	ツミ	<i>Accipiter gularis</i> (Temminck & Schlegel)
鳥類	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i> (Linnaeus)
鳥類	ノスリ	<i>Buteo buteo</i> (Linnaeus)
鳥類	サシバ	<i>Butastur indicus</i> (Gmelin)
鳥類	クマタカ	<i>Spizaetus nipalensis</i> Hodgson
鳥類	チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i> (Kaup)
鳥類	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i> (Linnaeus)
鳥類	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i> (Temminck & Schlegel)
鳥類	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i> (Linnaeus)
鳥類	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i> (Linnaeus)
鳥類	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i> (Linnaeus)
鳥類	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i> (Scopodi)
鳥類	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i> (Gray)
鳥類	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i> (Linnaeus)
鳥類	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i> (Linnaeus)
鳥類	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i> (Linnaeus)
鳥類	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i> (Linnaeus)
鳥類	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i> (Gray)
鳥類	アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i> (Bonaparte)
鳥類	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i> (Linnaeus)
鳥類	トラフズク	<i>Asio otus</i> (Linnaeus)

鳥類	コミミズク	<i>Asio flammeus</i> (Pontoppidan)
鳥類	コノハズク	<i>Otus scops</i> (Linnaeus)
鳥類	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i> (Horsfield)
鳥類	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i> (Raffles)
鳥類	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i> (Latham)
鳥類	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i> (Latham)
鳥類	ヤイロチョウ	<i>Pitta brachyura</i> (Linnaeus)
鳥類	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i> (Raffles)
鳥類	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i> (Linnaeus)
鳥類	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i> (Rafinesque)
鳥類	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i> (Pallas)
鳥類	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i> (Eyton)
鳥類	コジュリン	<i>Emberiza yessoensis</i> (Swinhoe)
鳥類	ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i> (Pallas)
鳥類	ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i> (Temminck & Schlegel)
鳥類	コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i> (Forster)
爬虫類	スッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i> (Wiegmann)
爬虫類	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i> (Peter)
爬虫類	シロマダラ	<i>Dinodon orientalis</i> (Hilgendorf)
爬虫類	アオダイショウ	<i>Elaphe ckinacophora</i> (Boie)
爬虫類	ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari</i> (Boie)
爬虫類	ヤマカガシ	<i>Rhyabodphis tigrinus tigrinus</i> (Boie)
両生類	アベサンショウウオ	<i>Hynobius abei</i> Sato
両生類	オオサンショウウオ	<i>Megalobatrachus japonicus</i> (Temminck)
両生類	ダルマガエル	<i>Rana porosa brevipoda</i> Ito
両生類	トノサマガエル	<i>Rana nigromaculata</i> Hallowell
両生類	ツチガエル	<i>Rana rugosa</i> Temminck et Schlegel
魚類	スナヤツメ	<i>Lethteron reissneri</i> (Dybowski)
魚類	カワヤツメ	<i>Lethteron japonicum</i> (Von Martens)
魚類	ウナギ	<i>Anguilla japonicum</i> Temminck et Schlegel
魚類	シラウオ	<i>Salangichthys microdon</i> Bleeker
魚類	ハス	<i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i> (Temminck et Schlegel)
魚類	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i> (Temminck et Schlegel)
魚類	イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i> Jordan et Fowler
魚類	アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira</i> subsp.1
魚類	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillcaudatus</i>
魚類	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i> Jordan et Richardson
魚類	メダカ	<i>Oryzias latipes</i> (Temminck et Schlegel)
魚類	陸封型イトヨ	<i>Gasterosteus</i> sp.
魚類	降海型イトヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> (Linnaeus)
魚類	トミヨ	<i>Pungitius sinensis</i> (Guichenot)
魚類	クロヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. DA
魚類	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i> (Mizuno)
魚類	シンジコハゼ	<i>Chaenogobius</i> sp.3
魚類	ジュズカケハゼ	<i>Chaenogobius laevis</i> (Steindachner)
魚類	シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i> Hilgendorf
昆虫類	ホソミイトトンボ	<i>Aciagrion migratum</i> Selys
昆虫類	ムスジイトトンボ	<i>Cercion sexlineatum</i> (Selys)
昆虫類	グンバイトンボ	<i>Platycnemis foliacea sasakii</i> Asahina

昆虫類	アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i> Selys
昆虫類	キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryeri</i> Selys
昆虫類	ヒラサナエ	<i>Davidius moiwanus taruii</i> Asahina et Inoue
昆虫類	ホンサナエ	<i>Gomphus postocularis</i> Selys
昆虫類	タベサナエ	<i>Trigomphus citimus tabei</i> Asahina
昆虫類	フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i> Selys
昆虫類	オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i> Asahina
昆虫類	マダラヤンマ	<i>Aeschna mixta</i> Latreille
昆虫類	ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i> Selys
昆虫類	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i> Selys
昆虫類	カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i> Bartenef
昆虫類	トラフトンボ	<i>Epithea marginata</i> Selys
昆虫類	エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea viridiaenea</i> (Uhler)
昆虫類	ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i> Rambur
昆虫類	キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i> Selys
昆虫類	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunckeli</i> Selys
昆虫類	クチキコオロギ	<i>Eulandrevus ivani</i> Gorochoy
昆虫類	カワラスズ	<i>Pteronemobius furumagiensis</i> (Ohmachi et Furukawa)
昆虫類	マツムシモドキ	<i>Aphonoides japonicus</i> (Shiraki)
昆虫類	カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i> (Saussure)
昆虫類	オマガリフキバッタ	<i>Parapodisma tanbaensis</i> Tominaga et Kano
昆虫類	オオコオイムシ	<i>Diplonychus major</i> Esaki
昆虫類	コオイムシ	<i>Diplonychus japonicus</i> Vuillefroy
昆虫類	タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i> (Vuillefroy)
昆虫類	ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i> Sharp
昆虫類	コガタノゲンゴロウ	<i>Cybister tripunctatus orientalis</i> Gschwendtner
昆虫類	シャープゲンゴロウモドキ	<i>Dytiscus sharpi validus</i> Regimbart
昆虫類	マルガタゲンゴロウ	<i>Graphoderus adamsii</i> (Clark)
昆虫類	コオナガミズスマシ	<i>Orectochilus punctipennis</i> Sharp
昆虫類	オオムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris ohbayashii</i> Y. Kurosawa
昆虫類	サシゲチビタマムシ	<i>Trachys robusta</i> E. Saunders
昆虫類	ガマキスイ	<i>Telmatophilus orientalis</i> Sasaji
昆虫類	イノウエホソカタムシ	<i>Antibothrus morimotoi</i> Sasaji
昆虫類	クロジュウニホシテントウ	<i>Plotina versicolor</i> Lewis
昆虫類	アミダテントウ	<i>Amida tricolor</i> (Harold)
昆虫類	ナカイケミヒメテントウ	<i>Scymnus nakaikemensis</i> Sasaji et Kishimoto
昆虫類	ヒゲブトナガクチキ	<i>Dircaeomorpha elegans</i> Sasaji
昆虫類	ワモンオビハナノミ	<i>Glipa shibatai</i> Nakane
昆虫類	フタイロカミキリモドキ	<i>Oedemeronia sexualis</i> (Marseul)
昆虫類	クチナガチビキカワムシ	<i>Salpingus morishimai</i> Sasaji
昆虫類	モンシロハネカクシダマシ	<i>Inopeplus quadrinotatus</i> (Gorham)
昆虫類	ベーツヒラタカミキリ	<i>Eurypoda batesi</i> Gahan
昆虫類	ヒラヤマコブハナカミキリ	<i>Enoploderes bicolor</i> Ohbayashi
昆虫類	ムナコブハナカミキリ	<i>Xenophyrama purpureum</i> Bates
昆虫類	ニッポンモモブトコバナカミキリ	<i>Merionoeda formosana septentrionalis</i> Tamu et Tsukamoto
昆虫類	スネケブカヒロコバナカミキリ	<i>Merionoeda hirsuta</i> (Mitono et Nishimura)
昆虫類	キュウシュウチビトラカミキリ	<i>Perissus kiusiuensis kiusiuensis</i> Ohbayashi
昆虫類	ヤノトラカミキリ	<i>Xylotrechus yanoi</i> Gressitt
昆虫類	ヤツボシシロカミキリ	<i>Olenecamptus octopustulatus</i> (Motschulsky)

昆虫類	クロオビトゲムネカミキリ	<i>Sciades (Estoliops) fasciatus fasciatus</i> (Matsushita)
昆虫類	イチモンジハムシ	<i>Morphosphaera japonica</i> (Hornstedt)
昆虫類	ナガフトヒゲナガゾウムシ	<i>Xylina striatifrons</i> (Jordan)
昆虫類	チャバネホソミツギリゾウムシ	<i>Cyphagopus iwatensis</i> Morimoto
昆虫類	ホソミツギリゾウムシ	<i>Cyphagopus signipes</i> Lewis
昆虫類	タカハシトゲゾウムシ	<i>Dinorhopala takahashii</i> (Kono)
昆虫類	キンケツツヒメゾウムシ	<i>Phaenomerus foveipennis</i> (Morimoto)
昆虫類	ワモントゲトゲゾウムシ	<i>Colobodes ornatus</i> Roelofs
昆虫類	ザウターカギバラバチ	<i>Taeniogonals sauteri</i> Bischoff
昆虫類	オキナワシリアゲコバチ	<i>Leucospis sinensis</i> Walker
昆虫類	ミヤマツヤセイボウ	<i>Philoctetes monticola</i> (Tsuneki)
昆虫類	ウチダハラナガツチバチ	<i>Megacampsomeris uchidai</i> (Betrem)
昆虫類	コツノアリ	<i>Oligomyrmex sauteri</i> Forel
昆虫類	ケブカツヤオオアリ	<i>Camponotus nipponensis</i> Santschi
昆虫類	アケボノベッコウ	<i>Anoplius eous</i> Yasumatsu
昆虫類	アジアキタドロバチ	<i>Allodynerus mandschuricus</i> Bluthgen
昆虫類	ハグロフタオビドロバチ	<i>Anterhynchium melanopterum</i> Sk. Yamane
昆虫類	フカイオオドロバチ	<i>Rhynchium quinquecinctum fukaii</i> Cameron
昆虫類	チャイロスズメバチ	<i>Vespa dybowskii</i> Andre
昆虫類	フクイアナバチ	<i>Sphex inusitatus fukuianus</i> Tsuneki
昆虫類	フジジガバチ	<i>Ammophila atripes japonica</i> Kohl
昆虫類	カラトイスカバチ	<i>Passaloecus koreanus</i> Tsuneki
昆虫類	タケウチギングチ	<i>Crossocerus takeuchii</i> Tsuneki
昆虫類	ニトベギングチ	<i>Spadicocrabro nitobei</i> (Matsumura)
昆虫類	キュビギングチ	<i>Towada flavitarsus</i> (Tsuneki)
昆虫類	カワラアワフキバチ	<i>Harpactus tumidus japonensis</i> (Tsuneki)
昆虫類	キアシハナダカバチモドキ	<i>Stizus pulcherrimus</i> (F. Smith)
昆虫類	ニッポンハナダカバチ	<i>Bembix nipponica</i> F. Smith
昆虫類	コムカシハナバチ	<i>Colletes vogti</i> Perez
昆虫類	コガタホオナガヒメハナバチ	<i>Andrena lonicerae</i> Tadauchi et Hirashima
昆虫類	イカズチキマダラハナバチ	<i>Nomada icazti</i> Tsuneki
昆虫類	ハイイロボクトウ	<i>Phragmataecia castaneae</i> (Hubner)
昆虫類	ホシチャバネセセリ	<i>Aeromachus inachus</i> Menetries
昆虫類	ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta bethesba</i> Janson
昆虫類	ヒサマツミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus hisamatsusanus</i> Nagami & Ishiga
陸生貝類	アツブタガイ	<i>Cyclotus campanulatus campanulatus</i> (Martens)
陸生貝類	ヒメオカメメタニシ	<i>Blanfordia japonica simplex</i> (Pilsbry)
陸生貝類	ナタネキバサナギガイ	<i>Vertigo eogea eogea</i> Pilsbry
陸生貝類	ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i> (Pilsbry)
陸生貝類	コベソマイマイ	<i>Satsuma myomphala myomphala</i> (Martens)
陸生貝類	ケハダビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis fragilis</i> (Gute)
陸生貝類	エチゼンビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis echizenensis</i> (Pilsbry & Hirase)
陸生貝類	エチゼンケマイマイ	<i>Aegista omiensis</i> (Pilsbry)
陸生貝類	コガネマイマイ	<i>Euhadra sandai sandai</i> (Kobelt)
淡水産貝類	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> (Martens)
淡水産貝類	カワグチツボ	<i>Fluviocingula elegans</i> (A. Adams)
淡水産貝類	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i> (Jay)
淡水産貝類	カワネジガイ	<i>Camptoceras terebra hirasei</i> Walker
淡水産貝類	ヒダリマキモノアラガイ	<i>Culmenella prashadi</i> (Clench)

淡水産貝類 カワシンジュガイ
 淡水産貝類 ササノハガイ
 淡水産貝類 マツカサガイ
 淡水産貝類 カラスガイ
 淡水産貝類 フネドブガイ
 淡水産貝類 マルドブガイ
 淡水産貝類 カタハガイ
 植物 オオミズゴケ
 植物 イチョウウキゴケ
 植物 ウキゴケ
 植物 シヤジクモ類
 植物 フラスコモ類
 植物 ミズスギ
 植物 ミズニラ
 植物 ミズドクサ
 植物 ミズワラビ
 植物 デンジソウ
 植物 サンショウモ
 植物 オオアカウキクサ
 植物 サクラバハノキ
 植物 ホソバイヌタデ
 植物 サデクサ
 植物 ホソバウナギツカミ
 植物 フシグロセンノウ
 植物 ミチノクフクジュソウ
 植物 ミスミソウ
 植物 アズマイチゲ
 植物 ヤマオダマキ
 植物 オキナグサ
 植物 バイカモ
 植物 ジュンサイ
 植物 オニバス
 植物 コウホネ
 植物 ヒツジグサ
 植物 マツモ
 植物 ハンゲショウ
 植物 トモエソウ
 植物 モウセンゴケ
 植物 ミズタガラシ
 植物 タコノアシ
 植物 ワレモコウ
 植物 ヒゴスミレ
 植物 ミゾハコベ
 植物 ミズキカシグサ
 植物 ミズマツバ
 植物 ヒメビシ
 植物 ヒシ
 植物 ウスゲチョウジタデ
 植物 ミズユキノシタ

Margaritifera laevis (Haas)
Lanceolaria oxyrhyncha (Martens)
Inversidens japonensis (Lea)
Cristaria plicata (Leach)
Anemina arcaeiformis (Haudei)
Anodonta (Sinanodonta) *calipygos* Kobelt
Pseudodon omiensis (Heimburg)
Sphagnum palustre L.
Ricciocarpus natans (L.) Corda
Riccia fluitans L.
Chara sp.
Nitella sp.
Lycopodium cernuum L.
Isoetes japonica A. Br.
Equisetum fluviatile L.
Ceratopteris thalictroides (L.) Brongn.
Marsilea quadrifolia L.
Salvinia natans (L.) All.
Azolla japonica Fr. et Sav.
Alnus trabeculosa Hand.-Mazz.
Persicaria trigonocarpa (Makino) Nakai
Persicaria maackiana (Regel) Nakai
Persicaria hastato-auriculata (Makino) Nakai
Lychnis miqueliana Rohrb.
Adonis multiflora Nishikawa et Ko. Ito
Hepatica nobilis Schreber var. *japonica* Nakai
Anemone raddeana Regel
Aquilegia buergeriana Sieb. et Zucc.
Pulsatilla cernua (Thunb.) Spreng.
Ranunculus nipponicus (Makino) Nakai var. *submersus* Hara
Brasenia schreberi J.F.Gmel.
Euryale ferox Salisb.
Nuphar japonicum DC.
Nymphaea tetragona Georgi
Ceratophyllum demersum L.
Saururus chinensis (Lour.) Saill.
Hypericum ascyron L.
Drosera rotundifolia L.
Cardamine lyrata Bunge
Penthorum chinense Pursh
Sanguisorba officinalis L.
Viola chaerophylloides (Regal) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino
Elatine triandra Schk. var. *pedicellata* Krylov
Rotala littorea (Miq.) Nakai
Rotala pusilla Tulasne
Trapa incisa Sieb. et Zucc.
Trapa japonica Flerov
Ludwigia greatrexii Hara
Ludwigia ovalis Miq.

植物 ホザキノフサモ
 植物 フサモ
 植物 ドクゼリ
 植物 レンゲツツジ
 植物 ヤナギトラノオ
 植物 クサレダマ
 植物 リンドウ
 植物 エゾリンドウ
 植物 センブリ
 植物 ムラサキセンブリ
 植物 ミツガシワ
 植物 ガガブタ
 植物 アサザ
 植物 チョウジソウ
 植物 スズサイコ
 植物 コムラサキ
 植物 ミズハコベ
 植物 ミズネコノオ
 植物 ミズトラノオ
 植物 キセワタ
 植物 マルバノサワトウガラシ
 植物 アブノメ
 植物 シソクサ
 植物 キクモ
 植物 ヒシモドキ
 植物 ノタヌキモ
 植物 タヌキモ
 植物 イヌタヌキモ
 植物 ミミカキグサ
 植物 ホザキノミミカキグサ
 植物 ムラサキミミカキグサ
 植物 オミナエシ
 植物 マツムシソウ
 植物 サワギキョウ
 植物 キキョウ
 植物 オケラ
 植物 タウコギ
 植物 モリアザミ
 植物 フジバカマ
 植物 ミズギク
 植物 オグルマ
 植物 ホソバオグルマ
 植物 カセンソウ
 植物 オオニガナ
 植物 ヒメヒゴタイ
 植物 キクアザミ
 植物 タムラソウ
 植物 ヤマザトタンポポ
 植物 マルバオモダカ

Myriophyllum spicatum L.
Myriophyllum verticillatum L.
Cicuta virosa L.
Rhododendron japonicum (A. Gray) Suringar
Lysimachia thyrsiflora L.
Lysimachia vulgaris L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Kunth
Gentiana scabra Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim.
Gentiana triflora Pallas var. *japonica* (Kusnez.) Hara
Swertia japonica (Schult.) Makino
Swertia pseudochinensis Hara
Menyanthes trifoliata L.
Nymphoides indica (L.) O.Kuntze
Nymphoides peltata (Gmel.) O.Kuntze
Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.
Cynanchum paniculatum (Bunge) Kitag.
Callicarpa dichotoma (Lour.) K.Koch
Callitriche palustris L.
Eusteralis stellata (Lour.) Murata
Eusteralis yatabeana (Makino) Murata
Leonurus macranthus Maxim.
Deinostema adenocaulum (Maxim.) Yamazaki
Dopatorium junceum (Roxb.) Buch.-Hamil.
Limnophila aromatica (Lam.) Merrill
Limnophila sessiliflora Blume
Trapella sinensis Oliver
Utricularia aurea Lour.
Utricularia vulgaris L. var. *japonica* (Makino) Tamura
Utricularia australis R.Br.
Utricularia bifida L.
Utricularia racemosa Wall.
Utricularia yakusimensis Masam.
Patrinia scabiosaefolia Fisch.
Scabiosa japonica Miq.
Lobelia sessilifolia Lamb.
Platycodon grandiflorum (Jacq.) A.DC.
Atractylodes japonica Koidz. ex Kitam.
Bidens tripartita L.
Cirsium dipsacolepis (Maxim.) Matsum.
Eupatorium fortunei Turcz.
Inula ciliaris (Miq.) Maxim.
Inula britannica L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.
Inula britannica L. subsp. *linariaefolia* (Turcz.) Kitam.
Inula salicina L. var. *asiatica* Kitam.
Prenanthes tanakae (Franch. et Savat.) Koidz.
Saussurea pulchella Fischer
Saussurea ussuriensis Maxim.
Serratula coronata L. subsp. *insularis* (Iljin) Kitam.
Taraxacum arakii Kitam.
Caldesia parnassifolia (Bassi ex L.) Parlat.

植物	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i> Makino
植物	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i> (Clarke) Hook.fil.
植物	ヤナギスブタ	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim.
植物	クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i> (L.fil.) Caspary
植物	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Bl.) Backer
植物	ミズオオバコ	<i>Ottelia japonica</i> Miq.
植物	セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) Hara
植物	エビモ	<i>Potamogeton crispus</i> L.
植物	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i> Regel et Maack
植物	フトヒルムシロ	<i>Potamogeton fryeri</i> A.Benn
植物	センニンモ	<i>Potamogeton maackianus</i> A.Bennett
植物	ササバモ	<i>Potamogeton malaianus</i> Miq.
植物	ホソバミズヒキモ	<i>Potamogeton octandrus</i> Poir.
植物	ヒロハノエビモ	<i>Potamogeton perfoliatus</i> L.
植物	イトモ	<i>Potamogeton pusillus</i> L.
植物	イバラモ	<i>Najas marina</i> L.
植物	ホッスモ	<i>Najas graminea</i> Del.
植物	イトトリゲモ	<i>Najas japonica</i> Nakai
植物	ヒロハトリゲモ	<i>Najas indica</i> (Willd.) Cham.
植物	カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.
植物	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i> Miq.
植物	キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i> (L.) Ker-Gawl.
植物	コオニユリ	<i>Lilium lancifolium</i> Thumb.
植物	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack
植物	ノハナショウブ	<i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai
植物	カキツバタ	<i>Iris laevigata</i> Fisch.
植物	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i> Koernicke
植物	ツクシガヤ	<i>Chikusichloa aquatica</i> Koidz.
植物	ヌマガヤ	<i>Moliniopsis japonica</i> (Hack.) Hayata
植物	ショウブ	<i>Acorus calamus</i> L.
植物	ミズバショウ	<i>Lysichiton camtschatcense</i> (L.) Schott
植物	オオハング	<i>Pinellia tripartita</i> (Blume) Schott
植物	ヒメザゼンソウ	<i>Symplocarpus nipponicus</i> Makino
植物	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i> L.
植物	ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.
植物	タマミクリ	<i>Sparganium glomeratum</i> Laest.
植物	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i> Rothert
植物	コガマ	<i>Typha orientalis</i> Presl
植物	ウキヤガラ	<i>Scirpus fluviatilis</i> (Torr.) A.Gray
植物	サワラン	<i>Eleorchis japonica</i> (A.Gray) F.Maek.
植物	カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A. Gray
植物	サギソウ	<i>Habenaria radiata</i> (Thunb.) Spreng.
植物	ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i> Reichb.fil.
植物	ミズチドリ	<i>Platanthera hologlottis</i> Maxim.
植物	コバノトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> Lindl. var. <i>nipponica</i> (Makino) Ohwi
植物	トキソウ	<i>Pogonia japonica</i> Reichb.fil.
植物	トンボソウ	<i>Tulotis ussuriensis</i> (Regel) Hara

(2) 現地調査期間

平成15年6月1日～平成16年1月20日

(3) 調査体制と役割分担

・事務局

調査の総括（文献調査の実施、調査地候補・調査対象種・調査項目案の作成、調査地・調査方法の決定と周知、調査体制の編成、調査票回収、調査結果の集計・まとめ、調査報告書の作成など）を行った。

・調査委員会

第一回調査委員会および第二回調査委員会において、調査地案、調査対象種、調査項目、調査結果、公表対象種の選定について検討し、事務局に対して助言を行った。

・調査員

現地調査を行った。

なお、調査員は調査対象により4部会（鳥獣、昆虫、水生動物部会、植物部会）、と下部単位10グループ（①哺乳類、②鳥類、③ハチ目、④チョウ・バタ目、⑤コウチュウ目、⑥トンボ・水生昆虫、⑦魚類、⑧両生類・爬虫類、⑨貝類、⑩植物）に編成して調査を行った。ただし、一部の調査員は複数の部会・グループに所属している。

(4) 調査手順（図5）

①文献情報・既存情報の集約、調査地候補の絞り込み

（3 調査地の選定方法を参照）

②調査地・調査方法の決定

事務局および調査委員会は、事務局が作成した調査対象種・調査項目案および調査地候補を検討し、専門的知見に基づいて案を修正した。この結果をもとに調査対象種および調査項目を決定し、選定委員会で協議を行って調査地を決定した。

③調査体制の編成

本調査の調査員は、種の分類・同定に関する確かな知識と能力を有することが必須である。このため、調査・研究実績のある県内大学および関係機関、県内の専門家に事務局から協力を依頼し、承諾頂いた方々を中心に調査体制を組織した。

④現地調査

既存文献調査の結果、分類群ごとにデータ量およびデータ蓄積地域が大きく異なることが明らかになった。このため、本調査では、指定した調査地の中から過去の調査記録が少ない地域の現地調査を行うこととし、調査グループごとに、現地調査を実施しない調査地を決定した（表3）。これをもとに、各調査員には調査対象種と調査担当範囲を割り当てた。

表3 現地調査実施分野

○：現地調査と文献調査を実施 ー：文献調査のみ

調査地番号	哺乳類	鳥類	両生類/ 爬虫類	魚類	昆虫 (ハチ)	昆虫 (水生)	昆虫 (コウチュウ)	昆虫(チョウバタ)	貝類	植物
1	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
2	ー	○	○	○	○	ー	ー	ー	○	○
3	○	○	○	○	ー	○	○	ー	○	○
4-1	ー	○	○	○	○	ー	○	ー	ー	○
4-2	○	○	○	ー	ー	○	○	ー	ー	○
4-3	ー	○	○	○	ー	○	ー	ー	○	○
4-4	ー	ー	○	○	○	ー	ー	ー	○	○
4-5	ー	○	○	○	ー	○	ー	ー	○	○
4-6	○	○	○	○	ー	○	ー	ー	○	○
5	ー	○	○	○	○	○	○	ー	○	○
6	○	○	○	○	ー	○	○	○	○	○
7-1	○	○	○	○	ー	○	○	○	○	○
7-2	ー	○	ー	○	○	○	○	ー	○	○
7-3	ー	○	○	○	ー	○	○	ー	○	○
7-4	○	ー	○	○	ー	○	○	ー	○	○
8-1	ー	ー	○	○	ー	○	ー	ー	○	○
8-2	ー	○	○	○	ー	○	ー	ー	○	○
8-3	ー	○	○	○	ー	ー	ー	ー	ー	○
8-4	ー	○	○	○	ー	ー	○	ー	○	○
8-5	ー	○	○	○	ー	ー	○	ー	ー	○
8-6	ー	○	○	○	○	ー	○	ー	○	○
8-7	ー	ー	○	ー	○	ー	○	ー	○	○
9	ー	ー	○	○	○	○	○	ー	○	○
10	○	○	○	○	ー	○	○	ー	○	○
11	ー	○	ー	ー	○	○	○	ー	ー	○
12	ー	ー	○	○	ー	○	○	ー	○	○
13	○	○	○	○	ー	○	ー	ー	○	○
14	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○
15	ー	ー	○	ー	○	ー	ー	ー	○	ー
16	ー	ー	○	ー	○	ー	○	ー	○	○
17	○	ー	ー	○	ー	○	○	ー	○	○
18	○	○	○	○	○	○	○	ー	ー	○
19	○	○	○	○	○	ー	○	ー	○	○
20	ー	ー	○	ー	○	ー	ー	ー	○	○
21	ー	ー	○	○	ー	ー	ー	ー	○	○
22	ー	ー	○	ー	○	○	○	ー	○	ー
23	ー	ー	○	○	ー	ー	○	ー	○	○
24	○	ー	○	ー	ー	ー	ー	ー	○	○
25	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○
26	ー	ー	○	ー	○	○	○	ー	○	○
27	○	○	○	○	ー	○	○	○	○	○
28	○	○	○	○	○	ー	ー	ー	○	ー

調査員は、調査票、調査対象種表、ポジフィルム、(調査員であることの) 身分証明カードを携行し、随時現地調査を実施した。

また、本調査が、福井県内で調査があまり行われていない里地里山域であり、発見や同定の困難な絶滅危惧種を対象としているため、事務局は必要に応じて調査方法や同定方法について説明会を開催するなど、調査員との連携を密にして実施した。

⑤調査票の回収

調査員は、現地調査結果を記録した調査票と、撮影したフィルムを随時事務局に提出し、同定が困難な種は標本または生資料を事務局に提出することとした。

コンピュータ入力の可能な調査員は、あらかじめ配布されている調査票の定型入力フォーマットを使用し、現地調査結果を入力したものを提出した。

調査票および資料の提出期限は、以下の日程とした。

第一次締切日（春夏調査分）	：	２００３年１０月３１日（金）
第二次締切日（秋調査・補足分）	：	２００３年１１月３０日（金）
最終締切日（冬調査分）	：	２００４年 １月２０日（火）

⑥情報処理、集計

調査員から送られてきた調査票の入力を行い、現地調査データのチェックを行った。これを既存文献情報*と合一し、各調査地ごとに記録された調査対象種としてまとめた。

注）調査地の検討課程では、基礎情報として福井県レッドデータブック動物編および自然保護センターが独自に収集した既存情報を用いたが、調査対象種が県 RDB 種だけでなく、里地里山環境指標種が含まれていることから、集計対象として以下の既存文献および情報を使用した。

- ・福井県レッドデータブック動物編
- ・福井県のすぐれた自然*
- ・生物多様性調査種の多様性調査集計等業務報告書：都道府県委託調査集計結果
- ・自然保護センターが独自に収集した情報

⑦調査結果のチェックと公開対象種の検討

調査委員会は集計された結果について、各調査地の生物相として適切かどうかのチェックを行って修正を加えた。さらに、公開することによって種の存続に重大な影響を与える恐れのある種の情報について検討を行った。

⑨「福井県重要里地里山」の選定と調査報告書の作成

第二回調査委員会の結果をもとに、選定委員会で協議を行い、「福井県重要里地里山」を選定し、公表の方法を検討した。

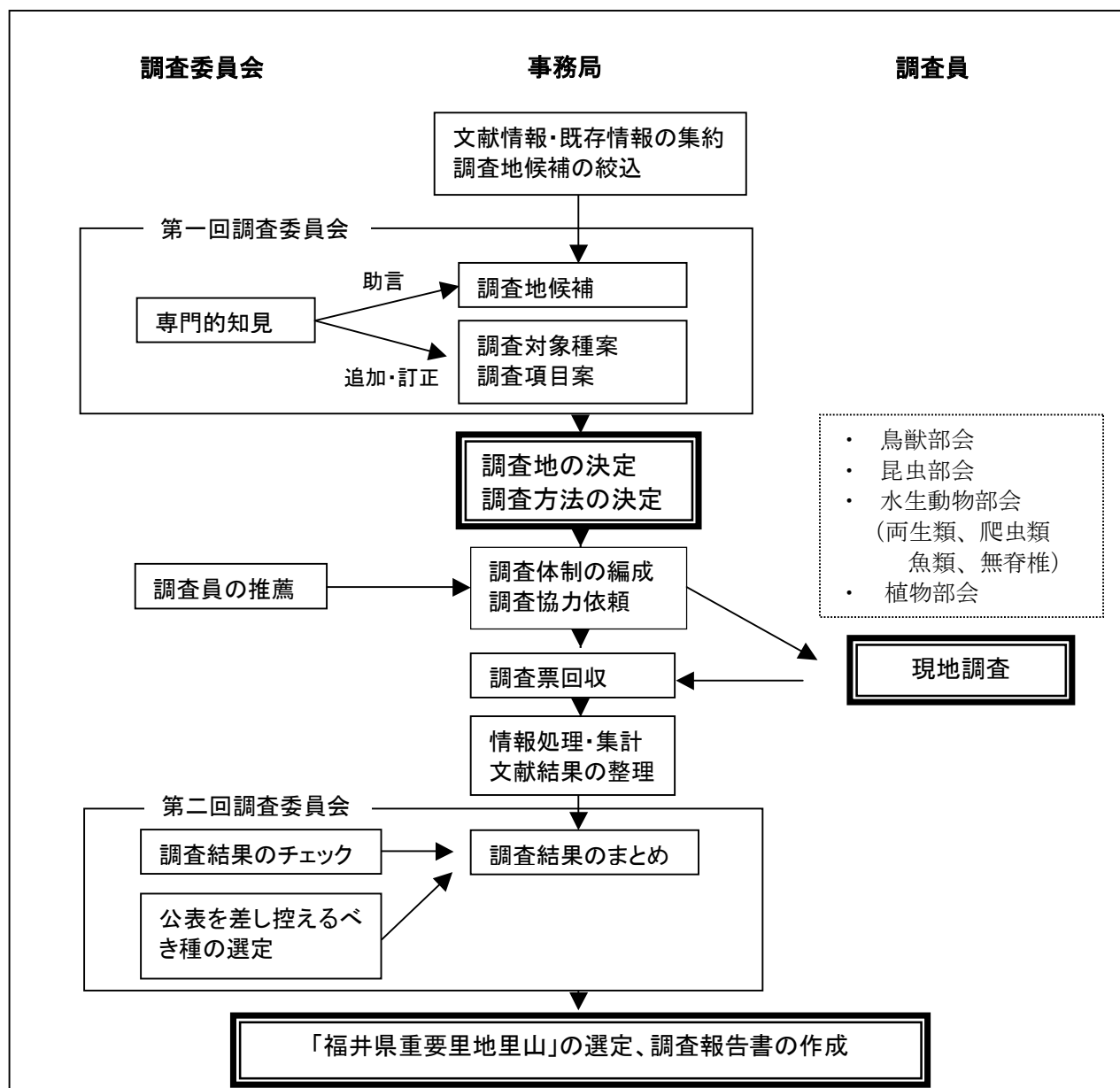


図 5 調査の流れと役割分担

(5) 調査項目

調査対象種（または痕跡）の確認の有無のほか、調査地周辺の環境、生息・生育環境等を記録した（資料2）。

全分野共通項目

- ・ 記入者
- ・ 調査地番号
- ・ 調査地名
- ・ 標高
- ・ 調査位置（北緯、東経を記入、または地図を添付）
- ・ 調査地周辺の環境

- ・ 写真提出時の識別番号
- ・ 林、草地、水域、平地、構造物、その他の環境
- ・ 調査開始日時
- ・ 調査終了日時
- ・ 天候
- ・ 確認種の記録
 - ・ 和名
 - ・ 同定者
 - ・ 調査方法
 - ・ 提出可能な確認物の種別
 - ・ 確認物提出時の識別番号
- ・ その他個体に関する情報（生息・生育数、生育状況など）

分類群別調査項目 ・ ・ ・ ・ 調査地の詳細環境

(哺乳類・カヤネズミ)	巣の新旧、巣のある草本植物、巣のある場所、 巣のある周辺の草刈、 備考
(哺乳類・洞窟棲コウモリ)	洞窟の種類、洞窟の入り口の大きさ（高さ）、 洞窟の入り口の大きさ（幅）、洞窟の奥行き、 洞窟内の天井の高さ、洞窟内の地面の水、 洞窟内の気温、洞窟外の気温、生息・生育地のランク、 同所的に確認した種、備考
(哺乳類・コウモリ捕獲用)	目撃した環境、環境の人為的影響、環境利用状況、 備考
(哺乳類・リス、ムササビ用)	目撃した環境、環境区分、樹木の胸高直径、 半径 10m 以内の樹洞の有無
(鳥類)	目撃した環境、環境の人為的影響、環境利用状況、 生息・生育ランク、その他目撃種
(トンボ・水生昆虫)	水位、護岸の状況、浮葉植物、沈水植物、流水の状況、 生育を脅かす外来種の存在
(コウチュウ目)	林内の明るさ、下層植生（草本）下層植生（ササ）、 開花の有無、枯死木、伐採木
(ハチ目)	林内の明るさ、草地の状態、地面の状況、護岸の状況、 人為的営巣環境、天然営巣環境
(チョウ目・バッタ目)	環境の好適性、備考
(魚類)	水系、水温、流域、流速、水深、河川・水路の幅、 水路の構造、水際の主な護岸、ため池の縦断長さ、 ため池の立地状況、調査地周辺のコンクリート護岸の 割合、水域の主な底質、水生植物の種類、 水生植物の主な生育場所、水生植物の主な被植率、 在来種の生育を脅かす外来種の有無、その他メモ
(両生類・爬虫類)	水域の主な底質、水際の主な護岸、 コンクリート護岸の主な高さ、水の流れ、うろの有無、 採餌環境、メモ
(貝類)	水域の主な底質、水際の主な護岸、水系、水深
(植物)	生育地の乾湿状況、水深、水際の主な護岸、

水域の主な底質、水域のコンクリート護岸の割合、対象種を含む水域の植物の種類、水田の管理状況、周辺の草刈の有無、ため池の立地状況、貧栄養湿地の面積、メモ

(6) 取りまとめの方法

情報処理、集計は図6に示す手順で行った。

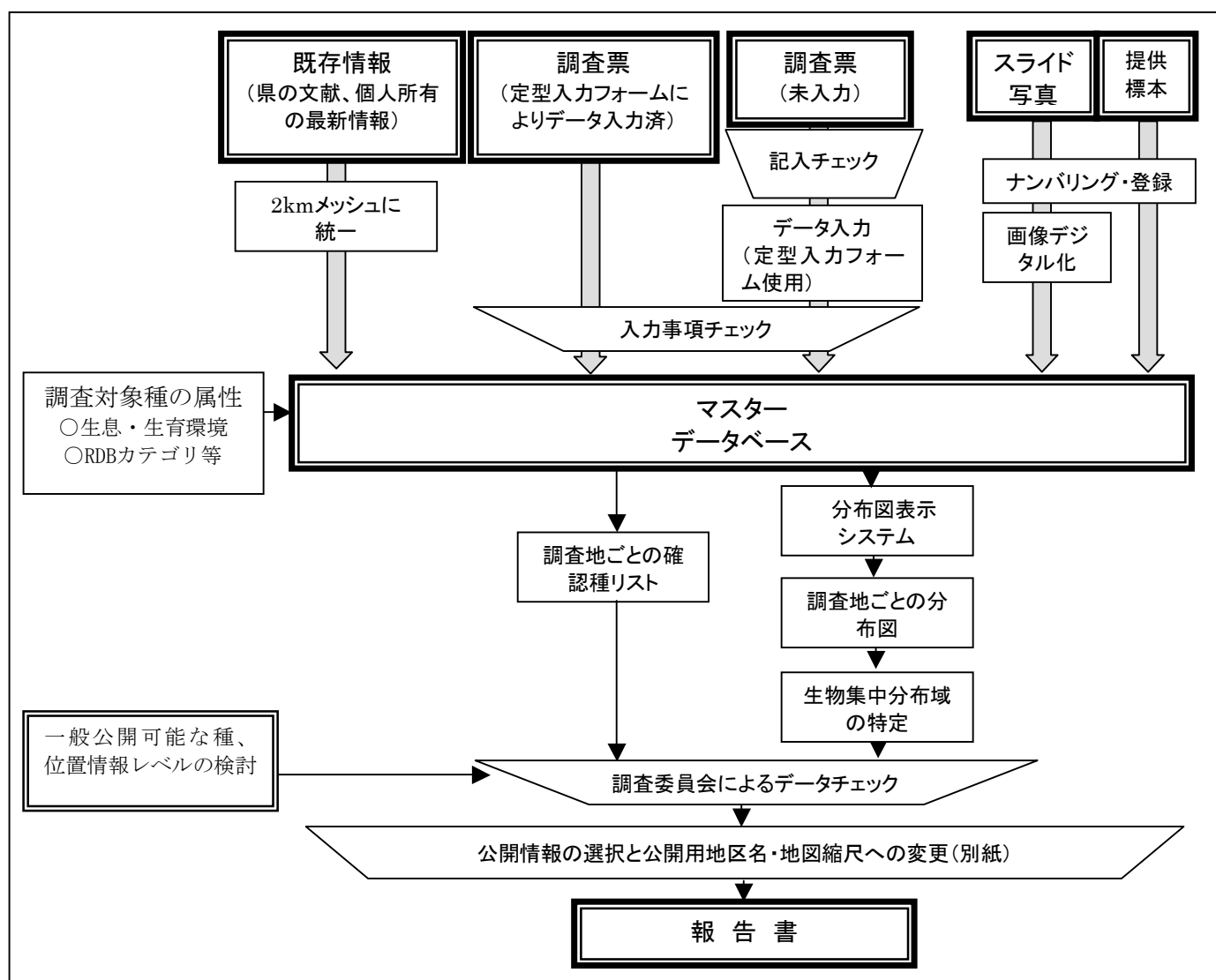


図6 情報処理・集計の流れ

①入力

調査結果の入力は、作業の効率化と入力ミスを防止するために、専用の定型入力フォームを利用して行った。

調査票中の種名や環境条件などの択一項目名は、あらかじめ定型入力フォームに登録されており、項目を選択するだけで入力できる。また位置情報については、コンピュータ画面の地図上で任意の地点を選択することにより、緯度経度を入力することができる(図7)。

調査票の形で集められた結果は事務局が入力作業を行ったほか、調査員にも定型入力フォームを配布し、電子様式での報告も受け付けた。

福井県重要里山里山選定調査-H15 - Microsoft Internet Explorer

登録する地点を地図上でクリックして下さい
+ マークの表示位置が登録されます

地図 終了

調査地点の基礎情報

調査者	平山 亜希子
調査地番号	
調査地名	福井市
標高	m
調査地点	東経136度12分55.601秒 北緯35度56分35.07秒 (緯経度は世界測地系(WGS84)で表示しています) 調査地点を中心とする半径 mの範囲
写真識別番号	
林地環境	該当せず
草地環境	該当せず
水域環境	該当せず
平地環境	該当せず
構造物	該当せず
その他の環境	該当せず
調査開始日時	2003 / 01 / 01 00 : 00
調査終了日時	2003 / 01 / 01 00 : 00
天候	快晴
生息・生育環境の詳細	
生育地の乾湿	該当せず

図7 定型入力フォーム（画面）

②データの点検

調査票と入力項目のチェックは事務局が行い、種名と確認地点、データの過不足のチェックは調査委員会が行った。

③調査対象種の生息・生育環境別分類と環境要素

調査地ごとの環境の概要を把握し、保全の対象環境の目安とするため、調査対象種の主な生息・生育環境を類型化し分類した。環境の要素を表4に示した。

④集計

現地調査の情報と、2 kmメッシュに統一した文献調査情報を合一し、調査地、生息・生育環境、絶滅危惧種カテゴリ別に集計を行った。

表 4 調査対象種の生息・生育・生育環境別分類と環境要素

カテゴリ	環境の要素	環境のかたち	主な生息・生育種
陸域(森林)	落葉広葉樹林(二次林)、常緑広葉樹林、大径木の林にすむ種	自然林、雑木林、社寺林、なだれ防止林などにすむ	モモンガ、アオバズクなど
陸域(森林+草地)	森林と草地の隣りあっている場所、または、それぞれの環境を利用する種		オオタカ、サシバなど
陸域(草地)	定期的な火入れや草刈りのある(あった)場所、乾燥した貧栄養土地にすむ種	カヤ場、土手、畦など草地にすむ	キキョウ、カヤネズミ、セツカなど
陸域(裸地)	植物がほとんど生えていない場所、人為的圧力または強い風や水流によりできる砂地や砂礫地などにすむ種	道路の路肩、砂利道、河原、造成地の裸地などにすむ	コチドリ、カワラバタ、フクイアナバチなど
陸域(その他)	陸域で以上のうちどれにも当てはまらない場所にすむ種	古い家屋、乾燥させている竹筒、薪置き場、洞窟などにすむ	ユビナガコウモリなど
陸域+水域	陸域と水域の隣りあっている場所、または、それぞれの環境を利用する種		アベサンショウウオ、タガメ、トンボ類など
水域(流水)	流れのある水辺にすむ種	湧水地、小河川、河川にすむ	イトヨ、ホトケドジョウ、バイカモなど
水域(止水)	流れがない、または流れのほとんど無い水辺にすむ種	水田、休耕田、放棄田、ため池、湖、土水路、みぞにすむ	メダカ、ゲンゴロウ、ダルマガエルなど
貧栄養湿地	流れになるほどでない湧水が絶えずある自然にできた湿地、貧栄養土地の湿地にすむ種	山間湿地、山際の畦、漏水のあるため池の土手、排水の悪い山際の休耕田にすむ	オオミズゴケ、ハッチョウトンボなど
水域(流水+止水)	止水と流水の両方にすむ種		エビモ、シロウオなど
その他	生態が不明な種など		キンケツツヒメゾウムシなど

4 調査結果

(1) 現地調査実施状況

調査地は、事務局が指定した調査地（28地域42箇所）のほか、調査員によって自主的に調査された場所（38箇所）を含めて80箇所であった。

また、調査対象種344種のうち報告された種は178種、未報告種数は164種、延べ報告件数*は2453件であった（表5）。

表5 調査グループ別の現地調査結果

調査グループ	調査対象種 (亜種変種含む)	報告種数	未報告種数	延べ報告件数*
哺乳類	14	4	10	43
鳥類	52	27	25	168
両生類・爬虫類	11	8	3	385
魚類	19	5	14	145
昆虫類	87	34	53	474
貝類	21	11	10	178
植物（藻類含む）	138	89	49	1060
計	342	178	164	2453

注) 件数は1箇所、1種につき1件とする。対象種が確認されなかった場合の報告も含む。

(2) 結果の概要

調査地別にまとめると、現地調査が行われた調査地のうち、県RDB種が最も多く報告された調査地4-6は42種、最も少なかった調査地22は0種であった。また、文献調査では、県RDB種が最も多く報告された調査地1は58種、最も少なかった調査地4-5は1種であった（表6）。

表6 調査地別の現地調査結果

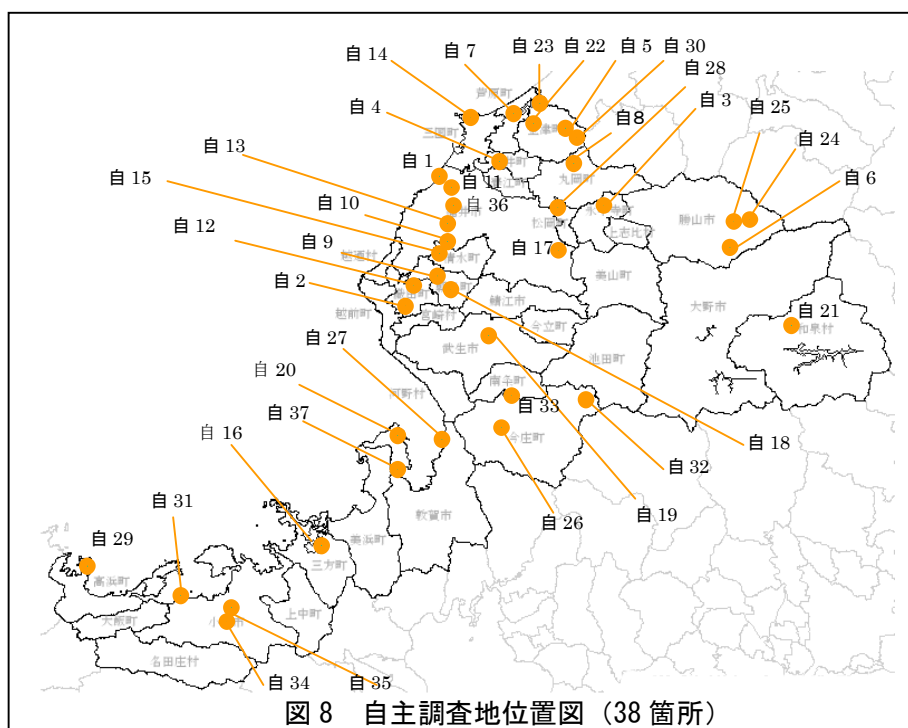
調査地 番号	現地調査			文献調査		(福井県重要里地里山) 選定作業	選定地 番号
	県RDB種数	指標種数	件数*	県RDB種数	指標種数		
1	0	0	0	60	8	選定	19
2	23	8	40	31	3	選定	18
3	13	11	33	43	2	選定(調査地19,27と合併の上)	23
4-1	10	2	23	3	0	選定	11
4-2	7	5	35	7	6	選定	12
4-3	19	8	95	22	4	選定(自主調査地40と合併の上)	13
4-4	1	3	10	11	0	除外(環境改変のため)	
4-5	25	8	120	1	1	選定(自主調査地42と合併の上)	14
4-6	42	14	334	17	0	選定(自主調査地32と合併の上)	15
5	16	3	55	7	0	選定(調査地6,自主調査地53と合併の上)	8
6	39	10	276	20	3	選定(調査地5,自主調査地35,54と合併の上)	8
7-1	8	5	36	9	0	選定(枝番号から独立の上)	26
7-2	12	1	45	12	0	選定(枝番号から独立の上)	27
7-3	10	4	31	5	0	選定(枝番号から独立の上)	28

7-4	7	1	31	6	1 選定(枝番号から独立の上)	29
8-1	8	2	33	8	0 選定(枝番号を合併の上)	9
8-2	8	1	19	15	1 選定(枝番号を合併,自主調査地 32 と合併の上)	9
8-3	9	1	25	14	0 選定(枝番号を合併の上)	9
8-4	23	9	85	28	0 選定(枝番号を合併の上)	9
8-5	3	3	18	5	0 選定(枝番号を合併の上)	9
8-6	7	2	22	19	4 除外(環境改変のため)	
8-7	5	2	12	11	2 除外(環境改変のため)	
9	8	1	40	24	2 選定(自主調査地 44 と合併の上)	7
10	14	5	35	4	0 選定	30
11	9	1	31	3	0 選定	22
12	10	2	20	7	0 選定	25
13	12	8	46	4	0 選定	24
14	23	6	85	33	3 選定(自主調査地 37 と合併の上)	6
15	6	0	38	41	6 除外(基準外のため)	
16	3	3	27	26	3 選定	16
17	11	3	29	7	0 選定	20
18	22	8	58	31	2 選定	4
19	22	8	70	25	0 選定(調査地 3,27 と合併の上)	23
20	4	2	21	17	2 選定	5
21	3	2	16	13	1 選定	17
22	0	3	30	8	2 除外(環境改変のため)	
23	4	3	22	11	4 除外(環境改変のため)	
24	3	2	8	4	1 選定(自主調査地 55 と合併の上)	1
25	21	8	142	11	3 選定(自主調査地 36 と合併の上)	3
26	20	7	71	11	0 選定	21
27	16	7	39	51	5 選定(調査地 3,19 と合併の上)	23
28	8	3	40	2	3 選定	2

注) 件数は1箇所、1種につき1件とする。対象種が確認されなかった場合の報告も含む。

事務局が指定した調査地のほかに、各調査員が調査期間中に自主的に現地調査を行って、報告した場所を自主調査地（38箇所）とした。

自主調査地のうち約3分の1は、指定した調査地に隣り合う場所であった。里地里山に相当しない奥山や河川などの場所も含まれていた(図8)。



自主調査地の実施分野を表 7 に示した。調査者個人の判断で調査する場所や範囲を判断しているため、複数分野で調査が行われた場所は少なく、全38箇所のうち13箇所であった。

○：現地調査を実施　　－：調査せず

	調査地 番号	哺乳類	鳥類	両生類/ 爬虫類	魚類	昆虫 (ハチ)	昆虫 (水生)	昆虫(コ ウチュウ)	昆虫(チョ ウバッタ)	貝類	植物
自主調査地 1	31	—	—	○	—	—	—	—	—	○	○
自主調査地 2	32	—	—	○	—	—	○	—	—	—	○
自主調査地 3	33	—	—	○	○	—	—	—	—	—	○
自主調査地 4	34	—	—	○	○	—	—	—	—	—	○
自主調査地 5	35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
自主調査地 6	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
自主調査地 7	37	—	—	○	○	—	○	—	—	—	○
自主調査地 8	38	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
自主調査地 9	39	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—
自主調査地 10	40	—	—	○	○	—	—	—	—	—	○

自主調査地 11	41	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
自主調査地 12	42	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○
自主調査地 13	43	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
自主調査地 14	44	—	—	○	○	—	—	—	—	—	○
自主調査地 15	45	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
自主調査地 16	47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
自主調査地 17	48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
自主調査地 18	49	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
自主調査地 19	50	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
自主調査地 20	51	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
自主調査地 21	52	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
自主調査地 22	53	—	—	○	○	—	—	—	—	—	○
自主調査地 23	54	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
自主調査地 24	55	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○
自主調査地 25	56	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○
自主調査地 26	57	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
自主調査地 27	58	—	—	○	—	—	—	—	—	○	○
自主調査地 28	59	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—
自主調査地 29	60	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—
自主調査地 30	61	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
自主調査地 31	62	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
自主調査地 32	63	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
自主調査地 33	64	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
自主調査地 34	65	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—
自主調査地 35	66	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—
自主調査地 36	67	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
自主調査地 37	68	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—

③自主調査地の現地調査結果

自主調査地別にまとめると、県 RDB 種が最も多く報告された調査地 31 および 37 は 15 種で、全 38 箇所のうち 13 箇所は県 RDB 種が記録されなかった（表 8）。

表 8 自主調査地の現地調査結果一覧

調査地番号	現地調査 県 RDB 種数	現地調査 指標種数	現地調査 件数*	指定調査地との 位置関係	(福井県重要里地里山) 選定作業	選定地 番号
31	15	5	40	調査地 8-4 の南西	選定	10
32	8	8	30	調査地 4-5 の南、4-6 の北	調査地 4-6 に編入	15
33	6	3	13	近い調査地無し	まとまった記録無し	
34	2	0	3	調査地 8-2 の西	調査地 8-2 に編入	9
35	2	0	4	調査地 6 の西	調査地 6 に編入	8
36	5	2	8	調査地 25 の西	調査地 25 に編入	3
37	15	5	35	調査地 14 の南	調査地 14 に編入	6
38	0	0	2	調査地 6 の南	まとまった記録無し	
39	1	2	3	近い調査地無し	まとまった記録無し	

40	2	2	4 調査地 4-3 の西	調査地 4-3 に編入	13
41	0	1	1 調査地 4-1 の北	まとまった記録無し	
42	3	1	4 調査地 4-5 の北	調査地 4-5 に編入	14
43	0	1	2 調査地 4-3 の東北	まとまった記録無し	
44	3	1	4 調査地 9 の西	調査地 9 に編入	7
45	1	0	1 近い調査地無し	まとまった記録無し	
47	4	1	5 調査地 3 の南	まとまった記録無し	
48	2	1	3 調査地 23 の北	まとまった記録無し	
49	1	0	2 近い調査地無し	まとまった記録無し	
50	0	0	1 近い調査地無し	まとまった記録無し	
51	1	0	1 調査地 26 の北	まとまった記録無し	
52	1	0	1 近い調査地無し	まとまった記録無し	
53	3	1	5 調査地 5 の西	調査地 5 に編入	8
54	0	1	1 調査地 6 の北	調査地 6 に編入	8
55	7	2	11 調査地 24 の北	調査地 24 に編入	1
56	1	0	2 調査地 24 の南	まとまった記録無し	
57	0	1	1 近い調査地無し	まとまった記録無し	
58	2	1	3 近い調査地無し	まとまった記録無し	
59	0	0	5 近い調査地無し	まとまった記録無し	
60	0	0	1 近い調査地無し	まとまった記録無し	
61	0	0	1 調査地 6 の西	まとまった記録無し	
62	0	0	2 調査地 7-2 の北	まとまった記録無し	
63	1	0	1 近い調査地無し	まとまった記録無し	
64	1	0	1 近い調査地無し	まとまった記録無し	
65	0	0	1 調査地 7-1 の北東	まとまった記録無し	
66	0	0	1 調査地 7-1 の北	まとまった記録無し	
67	1	0	2 調査地 4-2 の北	まとまった記録無し	
68	0	0	2 調査地 26 の北	まとまった記録無し	

注) 件数は1箇所、1種につき1件とする。対象種が確認されなかった場合の報告も含む。

5 「福井県重要里地里山」の選定と公表について

希少種が集中する里地里山の保全・活用のため、本調査の結果を検討して「福井県重要里地里山」を選定し、公表の準備を行った。

(1) 選定について

現地調査を基に、環境の連続性や同一性等を考慮して各調査地を合併、あるいは独立させて整理した(表 6、表 8)。また、指定した調査地の他に、調査委員によって自主的に調査された範囲でも、保全すべき里地里山環境が確認され絶滅危惧種がまとまって確認された場所については、新規候補地として加えた。

これを重要里地里山の一次候補とし、調査委員会および選定委員会により検討された以下の基準により地域の選定を行った。

A：記録された絶滅危惧種の種数が多い

B-1：記録された絶滅危惧種の県内の代表的な生息・生育地である

B-2：記録された絶滅危惧種の繁殖地、越冬地または旅鳥の重要な中継地点にな

っている
B-3 県内唯一の生息・生育地である

ただし、以下の条件に含まれる地区は、選定基準を満たしていても選定対象としなかった。

- ①文献記録以降の環境変化により、調査対象種がほとんど記録されなかった地区
②河川や奥山など、里地里山に該当しない自然環境を主体とする地区

その結果、「福井県重要里地里山」として30箇所が選定された（資料3）。

(2) 公表方法について

調査結果には絶滅危惧種の詳細な位置情報が多く含まれている。詳細な位置情報については公表すべきではないと考えられるが、本調査の趣旨からすると、選定地域の住民に対し保全活動の動機付けとなるよう絶滅危惧種の存在を明示することが欠かせないことから、公表の方法について以下のとおり検討した（図 10 参照）。

①非公開種の検討

分布情報の公開により乱獲の恐れがある種または、該当地への侵入によって種の存続に重大な受ける可能性のある情報（ねぐら、営巣地など）を非公開とすることとした。非公開情報は以下の通りである。

- ・ アベサンショウウオ（分布情報）・・・国内希少野生動植物種、絶滅危惧ⅠＡ類、
県域絶滅危惧Ⅰ類
- ・ ユビナガコウモリ（ねぐら情報）・・・県域準絶滅危惧
- ・ モモジロコウモリ（ねぐら情報）・・・（福井県）要注目
- ・ 猛禽類（営巣地情報）
- ・ ラン科植物（分布情報）

②公開対象種の検討

調査結果から非公開種に関する情報を除外した上で、保全対象として選定地域の住民が親しみを感じられる存在の種（フラッグシップ的性質の種）を調査対象種の中から選定した。

次に、調査地別の記録種リストから以下の基準に従って公表種の絞り込みを行った。

- ア. 1箇所につき5種程度
- イ. 環境指標性が高い
- ウ. 個体数が多い
- エ. 観察頻度が高い
- オ. 国RDB種をなるべく避ける
- カ. 文献情報でのみ記録されている種をなるべく避ける
(文献情報は1990年以降に確認された種を採用する)

③公表地域名の検討

地籍名（町名・集落名・字名）の使用を避け、山地名、河川名、広域地名（複数集落を示す呼び名）を使用した。

④公表用地図の検討

調査により判明した生物集中分布域を基に選定区域の地図上での表現方法について検

討し、以下のとおりとした。

- ・ 詳細な分布域の形が判別できないよう楕円形など規則的な形にする
- ・ 詳細な生物分布範囲が判別できないよう境界線をぼかす
- ・ 基図として、位置精度が粗く、都市との位置関係が把握しやすい1/20万地形図を使用する

(3) 公表資料

(2) に述べた検討・作業課程を経て、「福井県重要里地里山」30箇所の公表資料として以下の資料を作成した。

- ・ 公表用リスト「福井県重要里地里山」一覧（資料3）
- ・ 「福井県重要里地里山」現地写真（資料5）

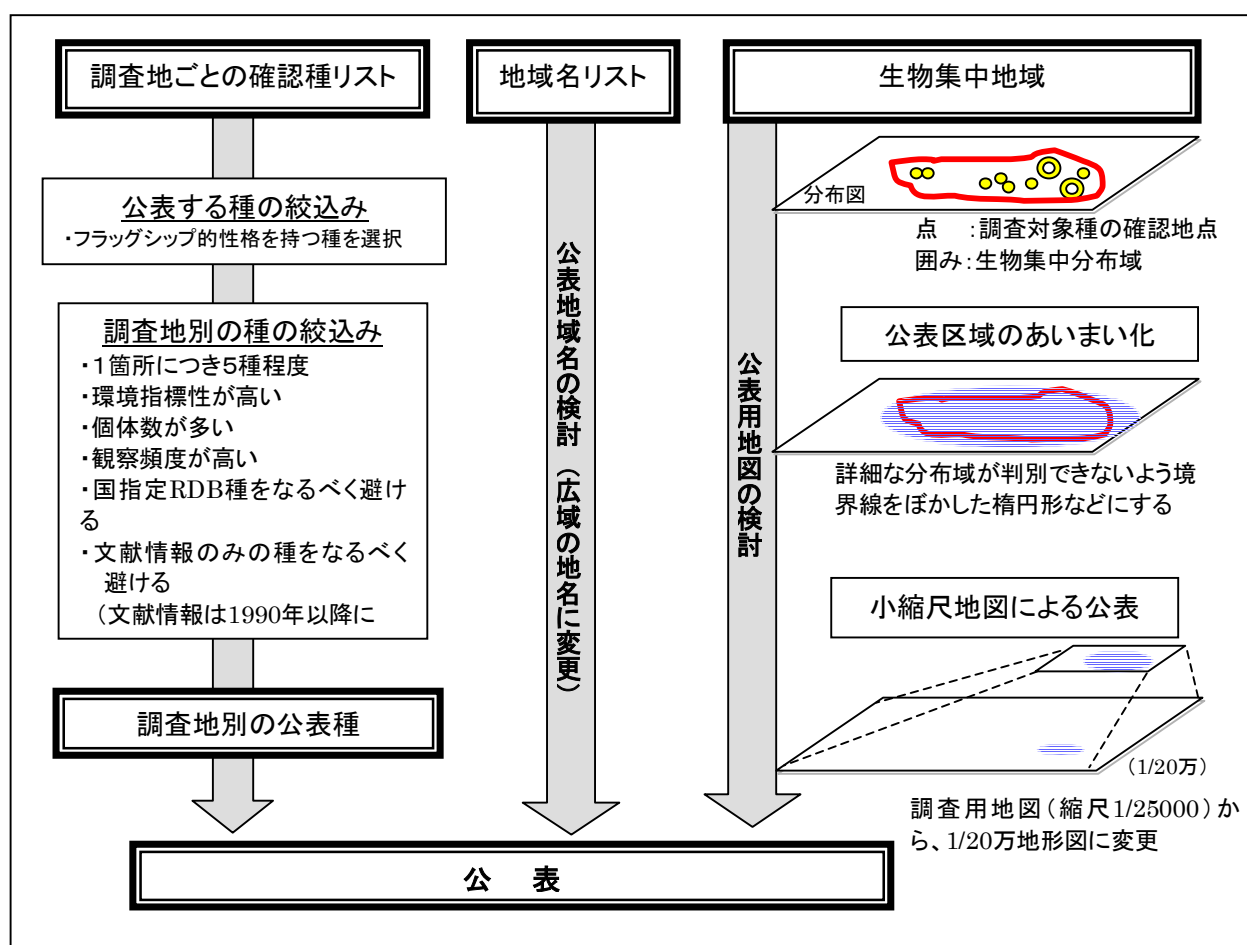


図 10 選定結果公表レベル検討作業図

資 料

資料 1 調査対象種一覧

資料 2 調査票

資料 3 「福井県重要里地里山」一覧

資料 4 福井県重要里地里山」位置図

資料5 「福井県重要里地里山」現地写真

参考文献

- 大澤・勝野(2000) 多摩丘陵におけるニホンアマガエル・ヤマアカガエルの樹林地利用 爬虫両棲類学会会報 2000(1):52.
- 金子ほか(1992) テレメトリー法によるアズマヒキガエルの繁殖後の分散に関する研究. 爬虫両棲類学雑誌 14(4):209.
- Kusano(1984) Dispersal of the Salamander, *Hynobius nebulosus tokyoensis*. journal of Herpetology 18(3):349-353.
- 三井ほか(2002) 農村地域における土地利用分布図に着目した生物生息環境の評価手法—兵庫県洲本市の事例— 農村計画学会春期大会.
- 福井県(1999) 福井県のすぐれた自然(動物編). 福井県, 福井.
- 福井県(1999) 福井県のすぐれた自然(植物編). 福井県, 福井.
- 福井県(1999) 福井県のすぐれた自然(地形地質編). 福井県, 福井.
- 福井県(2002) 福井県の絶滅のおそれのある野生動物 2002 福井県レッドデータブック(動物編). 福井県, 福井.
- 福井県(2004) 福井県の絶滅のおそれのある野生植物 2004 福井県レッドデータブック(植物編). 福井県, 福井.
- 京都府(2003) 京都府レッドデータブック 2002 上巻, 京都府環境企画課, 京都
- 山口県(2002) レッドデータブックやまぐち. 山口県自然保護課, 山口
- 岐阜県(2001) 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 岐阜県レッドデータブック 2001 岐阜県, 岐阜.
- 愛知県植物誌調査会(1996) 植物からの SOS—愛知県の絶滅危惧植物. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.
- 佐竹義輔・大井次三郎ほか(1982) 日本の野生植物 I, 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・大井次三郎ほか(1982) 日本の野生植物 II, 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・大井次三郎ほか(1982) 日本の野生植物 III, 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・原寛ほか編(1989) 日本の野生植物木本 II, 平凡社, 東京
- 角野康郎(1994) 日本水草図鑑, 文一総合出版, 東京.
- 福井植物研究会(1998) 福井の野草(下), 橋本確文堂, 金沢.
- 環境省編(2002) 生物多様性国家戦略, ぎょうせい, 東京
- 環境省自然環境局生物多様性センター(2001) 生物多様性調査種の多様性調査集計等業務報告書: 都道府県委託調査集計結果(電子資料)
- 環境省自然環境局野生生物課(2002) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 1 [哺乳類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課(2002) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 2 [鳥類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 3 [爬虫類・両生類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課(2003) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 4 [汽水・淡水魚類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 [植物 I (維管束植物)], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 [植物 II (維管束植物以外)], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(1991) 日本の絶滅のおそれのある野生生物 無脊椎動物編, 自然環境研究センター, 東京.

調査体制

(1) 調査委員会

部会	氏名	所属
鳥獣	上木泰男	日本野鳥の会福井県支部
	久保上宗次郎	猛禽類研究家
両・爬・無脊椎・魚類	長谷川巖	武生東小学校
	松田隆喜	丸岡高校
昆虫類	羽田義任	日本昆虫学会
	長田勝	福井市自然史博物館
	下野谷豊一	日本鱗翅目学会
	井上重紀	日本甲虫学会
	保科英人	福井大学
	和田茂樹	日本蜻蛉学会
植物	渡辺定路	福井市自然史博物館
	石本昭司	植物研究家

(2) 事務局

福井県自然保護課

岡本 光之
多田 雅充

福井県自然保護センター

西垣 正男
水谷 瑞希
平山 亜希子

福井県海浜自然センター

松村 俊幸

(3) 調査員（敬称略、五十音順）

油谷 誠，石田 惣，井尻 雅己，上坂 正夫，宇野 竜司，大橋 正明，岡 友章，奥野 宏，納村 力，香川 正行，笠羽 靖浩，加藤 文男，金田 俊晃，川内 一憲，神田 美奈子，岸本 修，北川 博正，櫛谷 知之，黒川 秀吉，黒田 明穂，小嶋 明男，小林 則夫，斉藤 寛昭，斉藤 昌弘，酒井 哲弥，柴田 泰彦，柴田 亮俊，鈴川 文夫，関岡 裕明，竹内 一介，武田 究，田埜 正，辻 義次，中林 喜悦，野坂 千津子，福岡 修，福田 健，藤井 豊，堀田 高久，堀田 雅貴，三原 学，室田 忠男，森 照代，森田 弘樹，八木 健爾，柳町 邦光，横山 大八，吉田 一朗，吉村 洋子

資料1 調査対象種一覧

調査対象種一覧

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
1	哺乳類	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	—	—	陸域(その他)	洞窟
2	哺乳類	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	—	—	陸域(その他)	洞窟
3	哺乳類	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ	要注目	要注目	陸域(その他)	洞穴をねぐらとしている,採餌空間として森林
4	哺乳類	ヒナコウモリ科	ホンドノレンコウモリ	絶滅危惧ⅠB類	—	陸域(森林)	森林や洞窟
5	哺乳類	ヒナコウモリ科	モリアブラコウモリ	絶滅危惧ⅠB類	—	陸域(森林)	樹洞が形成されるような大径木のある自然の壮齢林
6	哺乳類	ヒナコウモリ科	ヤマコウモリ	絶滅危惧Ⅱ類	—	陸域(森林)	葉樹をはじめとする大径木のある原生林
7	哺乳類	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	樹洞
8	哺乳類	ヒナコウモリ科	ニホンウサギコウモリ	絶滅危惧Ⅱ類	—	陸域(森林)	本来は樹洞
9	哺乳類	ヒナコウモリ科	ユビナガコウモリ	—	県域準絶滅危惧	陸域(その他)	洞穴をねぐらとしている,採餌空間として森林
10	哺乳類	ヒナコウモリ科	ニホンテングコウモリ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	本来は樹洞
11	哺乳類	リス科	ニホンリス	—	—	陸域(森林)	森林
12	哺乳類	リス科	ニホンモモンガ	—	県域準絶滅危惧	陸域(森林)	樹洞のある大径木林
13	哺乳類	リス科	ムササビ	—	—	陸域(森林)	樹洞のある大径木林
14	哺乳類	ネズミ科	カヤネズミ	—	—	陸域(草地)	チガヤ,ヨシ,ススキなど背の高い草地
15	鳥類	サギ科	サンカノゴイ	絶滅危惧ⅠB類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	水辺のヨシ原など,広大な湿性草原
16	鳥類	サギ科	ヨシゴイ	—	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	湖沼,河川,休耕田などの,ヨシ,マコモ,ガマ類などが繁茂する湿地
17	鳥類	サギ科	オオヨシゴイ	絶滅危惧ⅠB類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	湖沼,河川,休耕田などに見られるヨシ原
18	鳥類	サギ科	ミゾゴイ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域+水域	暗い林と,餌の豊富な水辺が近くにあるような特定の環境
19	鳥類	サギ科	ササゴイ	—	県域準絶滅危惧	水域(止水)	河川や湖沼など,低地や平地の水辺
20	鳥類	サギ科	チュウサギ	準絶滅危惧	県域準絶滅危惧	水域(流水+止水)	平地の水田,浅い水辺,水辺近くの草地
21	鳥類	カモ科	マガン	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	広い水田や休耕田
22	鳥類	カモ科	ヒシクイ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	主に,開けた水田地帯,河川,池沼も好む.
23	鳥類	カモ科	オオヒシクイ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	主に,開けた水田地帯,河川,池沼も好む.
24	鳥類	カモ科	オオハクチョウ	—	県域準絶滅危惧	水域(流水+止水)	湿田,湖,河川
25	鳥類	カモ科	コハクチョウ	—	県域準絶滅危惧	水域(止水)	主に海岸近くの湖沼や河口,内湾など. 水田の二番穂や落ち穂を主に採食
26	鳥類	カモ科	アカツクシガモ	情報不足	要注目	水域(止水)	里地,湖,池
27	鳥類	カモ科	オシドリ	—	県域準絶滅危惧	陸域+水域	落葉広葉樹林,樹洞
28	鳥類	カモ科	ヨシガモ	—	県域準絶滅危惧	水域(止水)	水草の生える湖,池
29	鳥類	タカ科	ミサゴ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(流水+止水)	海岸,湖沼,河川,周辺の岩の上や大径木で繁殖
30	鳥類	タカ科	ハチクマ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	落葉広葉樹林,アカマツ林,スギ林
31	鳥類	タカ科	オオタカ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(森林+草地)	緩やかな地形の森林,営巣林は緩斜面にある胸高直径50cm以上の高木林
32	鳥類	タカ科	ツミ	—	県域準絶滅危惧	陸域(森林)	平地から亜高山の林で繁殖
33	鳥類	タカ科	ハイタカ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	平地から亜高山帯の林,冬期は河川敷,ヨシ原,林近くの農耕地にも現れる
34	鳥類	タカ科	ノスリ	—	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	林で繁殖し,冬期は河川敷,農耕地,干拓地,ヨシ原など
35	鳥類	タカ科	サシバ	—	県域準絶滅危惧	陸域(森林+草地)	森林と農耕地が点在する里山
36	鳥類	タカ科	クマタカ	絶滅危惧ⅠB類	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(森林)	山地帯の急な地形の森林,営巣林は急斜面にある胸高直径60cm以上の林
37	鳥類	タカ科	チュウヒ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	広いヨシ原
38	鳥類	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	—	県域準絶滅危惧	陸域(草地)	営巣場所となる人工構造物,餌動物の生息場所となる草原などの開けた環境
39	鳥類	キジ科	ウズラ	情報不足	要注目	陸域(草地)	平地,海岸,高原などの草原,原野,冬は水田,河川敷など
40	鳥類	クイナ科	クイナ	—	県域準絶滅危惧	水域(止水)	水辺の草むらの中
41	鳥類	クイナ科	ヒクイナ	—	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	湖沼,河川,水田などの湿地のヨシ原や草むらで繁殖
42	鳥類	タマシギ科	タマシギ	—	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	湿田,蓮田,セリ田や生活排水が流れ込む休耕田

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
43	鳥類	チドリ科	コチドリ		県域準絶滅危惧	陸域(裸地)	裸地に近い砂地や砂礫の多い場所
44	鳥類	チドリ科	イカルチドリ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(裸地)	大きな河川の中流部に生息し、礫の多い河原で繁殖
45	鳥類	シギ科	イソシギ		県域準絶滅危惧	陸域+水域	河川、池沼、水田、畑地
46	鳥類	シギ科	ホウロクシギ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	海岸の砂浜、河口の砂泥地などの他、水田
47	鳥類	チドリ科	ヤマシギ		県域準絶滅危惧	陸域+水域	様々な林の他、農耕地、河川敷、水田
48	鳥類	チドリ科	タシギ		—	水域(止水)	内陸の湿地や水田
49	鳥類	シギ科	オオジシギ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(草地)	比較的広々とした草原や荒れ地上の灌木のある草原
50	鳥類	シギ科	アオシギ		—	陸域+水域	営巣地は山地の溪流近くの草原
51	鳥類	セイタカシギ科	セイタカシギ	絶滅危惧ⅠB類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	浅い淡水・塩水の湖沼、河川およびその周辺の水田や湿地帯、河口部の干潟
52	鳥類	フクロウ科	トラフズク		県域準絶滅危惧	陸域(森林)	平地から亜高山帯の林に生息する。村落内など林
53	鳥類	フクロウ科	コミズク		県域準絶滅危惧	陸域(草地)	立地、河原、農耕地などの開けた草原的環境
54	鳥類	フクロウ科	コノハズク		県域準絶滅危惧	陸域(森林)	大きな木のある深い森に夏鳥として渡来し、樹洞で繁殖
55	鳥類	フクロウ科	オオコノハズク		県域準絶滅危惧	陸域(森林)	様々なタイプの林に生息し、主に大木の樹洞で繁殖
56	鳥類	フクロウ科	アオバズク		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	大径木林などに夏鳥として渡来し、主に樹洞を利用して繁殖
57	鳥類	ヨタカ科	ヨタカ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	平地から山地の明るい林や草原
58	鳥類	カワセミ科	アカショウビン		県域準絶滅危惧	陸域+水域	深山の溪流沿いの広葉樹林
59	鳥類	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	絶滅危惧ⅠB類	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(森林)	広葉樹の多いよく茂った林
60	鳥類	サンショウクイ科	サンショウクイ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	広葉樹の上部、高い広葉樹のある林
61	鳥類	モズ科	アカモズ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	林や林縁、低木の林などで繁殖
62	鳥類	ウグイス科	セツカ		県域準絶滅危惧	陸域(草地)	チガヤの多い草原、ヨシ原のある河原や放置された休耕田の草原
63	鳥類	ヒタキ科	コサメビタキ		県域準絶滅危惧	陸域(森林)	よく茂った広葉樹または針葉樹の老木の多い環境
64	鳥類	カササギヒタキ科	サンコウチョウ		県域準絶滅危惧	陸域(森林)	大径木の社寺林、スギ林、落葉広葉樹林
65	鳥類	ホオジロ科	コジュリン	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	河川敷に広がるヨシ原の周辺部や草丈の低い草原、休耕田、牧草地など
66	鳥類	ホオジロ科	ホオアカ		要注目	陸域(草地)	あらゆるタイプの草原、比較的乾いたところを好む
67	鳥類	ホオジロ科	ノジョ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林+草地)	灌木林や山地の開けた草地や林縁
68	鳥類	ムクドリ科	コムクドリ		要注目	陸域(森林)	落葉広葉樹林や村落付近など
69	爬虫類	イシガメ科	スッポン	情報不足	要注目	水域(止水)	河川の流れの緩やかな中・下流域の砂泥質底や池沼
70	爬虫類	ヘビ科	タカチホヘビ		要注目	陸域(森林)	山間部の暗く、湿り気のあるガレ場、朽ち木・落ち葉の下
71	爬虫類	ヘビ科	シロマダラ		要注目	陸域(その他)	里の堆肥や薪の集積場、家屋の基礎石等
72	爬虫類	ヘビ科	アオダイショウ		—	陸域+水域	山地から平地までのさまざまな環境
73	爬虫類	ヘビ科	ヒバカリ		要注目	陸域+水域	里山低山地の森林、山地とそれに続く田園地帯や小河川
74	爬虫類	ヘビ科	ヤマカガシ		—	陸域+水域	山地から平地の水辺
75	両生類	サンショウウオ科	アベサンショウウオ	絶滅危惧ⅠA類	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域+水域	山麓帯の林内湿地や休耕田の周辺
76	両生類	オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域+水域	山地の上流から中流域
77	両生類	アカガエル科	ダルマガエル	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	水田、水路
78	両生類	アカガエル科	トノサマガエル		—	水域(止水)	水田、水路、ため池
79	両生類	アカガエル科	ツチガエル		—	水域(止水)	水田、水路、ため池
80	魚類	スナヤツメ科	スナヤツメ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水)	大河川や湧水池。産卵期以外は水の澄んだ浅い砂または砂泥底
81	魚類	スナヤツメ科	カワヤツメ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水)	産卵は中流域の礫底。アンモニーテス幼生は中流域や下流域の柔らかい泥中
82	魚類	ウナギ科	ウナギ		県域準絶滅危惧	水域(流水)	河川、湖、内湾
83	魚類	シラウオ科	シラウオ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水+止水)	汽水湖、海の沿岸、河川
84	魚類	コイ科	ハス		県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(流水+止水)	食物の供給が保証される大河川や湖沼に連なる河川
85	魚類	コイ科	アブラボテ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	緩勾配の小河川の上流から中流域。産卵にはイシガイ科の二枚貝が必要
86	魚類	コイ科	イチモンジタナゴ	絶滅危惧ⅠB類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(流水+止水)	流れの緩やかな小川、水路、湖沼など。水草の繁茂した場所。産卵には二枚貝が必要

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
87	魚類	コイ科	アカヒレタビラ		県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	河川の中流域から下流域,湖沼,産卵には二枚貝が必要
88	魚類	ドジョウ科	ドジョウ		—	水域(止水)	泥底を好む.本来は水田,水路に生息.河川には広く分布.
89	魚類	ドジョウ科	ホトケドジョウ	絶滅危惧ⅠB類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(流水)	湧水を水源に持つ細流,用排水路や池の砂れき底または泥底
90	魚類	メダカ科	メダカ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	池と沼,河川下流部の岸辺,水田とその用排水路
91	魚類	トゲウオ科	陸封型イトヨ	地域個体群	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(流水)	湧水池とその流水路にすむ.水温15℃前後の水の澄んだ砂泥底で,水草のある所を好む
92	魚類	トゲウオ科	降海型イトヨ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水)	海の沿岸や塩だまりなどに生息.大・小河川,湖に遡上
93	魚類	トゲウオ科	トミヨ		県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(流水)	湧水池とその流水路にすむ.水温15℃前後の水の澄んだ砂泥底で,水草のある所を好む
94	魚類	ハゼ科	クロヨシノボリ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水)	小河川,海
95	魚類	ハゼ科	カワヨシノボリ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水)	河川
96	魚類	ハゼ科	シンジョハゼ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水+止水)	汽水域
97	魚類	ハゼ科	ジュズカケハゼ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水+止水)	河川の中・下流域や湖沼
98	魚類	ハゼ科	シロウオ	準絶滅危惧	県域準絶滅危惧	水域(流水+止水)	海産魚.沿岸部等塩分濃度の低く,波が穏やかで水質の良い環境.水の澄んだ河口で産卵
99	昆虫類	イトトンボ科	ホソミイトトンボ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	池沼,湿地に生息する.未熟成虫の生活場所となる周辺の樹林や草地
100	昆虫類	イトトンボ科	ムスジイトトンボ		県域準絶滅危惧	陸域+水域	浮葉植物や沈水植物などの繁茂する池沼
101	昆虫類	モノサシトンボ科	ゲンバイトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	水草の多い清流
102	昆虫類	カワトンボ科	アオハダトンボ		県域準絶滅危惧	陸域+水域	水草の多い清流
103	昆虫類	サナエトンボ科	キイロサナエ		県域準絶滅危惧	陸域+水域	幼虫の生息環境には,良質な泥質地の小川や流れが必要
104	昆虫類	サナエトンボ科	ヒラサナエ		県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域+水域	生息地はハンノキなどの疎林を流れる砂底の細流
105	昆虫類	サナエトンボ科	ホンサナエ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	河川中流～下流に生息する
106	昆虫類	サナエトンボ科	タベサナエ		県域準絶滅危惧	陸域+水域	浅い小川や灌漑用溜池に生息
107	昆虫類	サナエトンボ科	フタスジサナエ		県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域+水域	挺水植物が繁茂する池沼や,水田,畦間の溝川
108	昆虫類	サナエトンボ科	オグマサナエ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	池沼や水田,溝川
109	昆虫類	ヤンマ科	マダラヤンマ		要注目	陸域+水域	平坦地の挺水植物の多い開けた泥沼
110	昆虫類	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	ヨシやマコモ,ガマが繁茂した沼池,特に周辺に森林がある丘陵地の沼
111	昆虫類	ヤンマ科	アオヤンマ		県域準絶滅危惧	陸域+水域	池沼や湿地に生育,草原で摂食
112	昆虫類	ヤンマ科	カトリヤンマ		県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域+水域	木陰の多い池,水田,畦間の緩やかな流れ
113	昆虫類	エゾトンボ科	トラフトンボ		県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域+水域	挺水植物や浮葉植物が繁茂する,池沼
114	昆虫類	エゾトンボ科	エゾトンボ		要注目	陸域+水域	比較的草地化の進んだ廃棄水田,周辺林で摂食
115	昆虫類	トンボ科	ハッチョウトンボ		要注目	陸域+水域	日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田
116	昆虫類	トンボ科	キトンボ		要注目	陸域+水域	平地や丘陵地の樹林に囲まれた池沼
117	昆虫類	トンボ科	マイコアカネ		要注目	陸域+水域	挺水植物が繁茂する池沼,海岸沿いの汽水域の沼等
118	昆虫類	コオロギ科	クチキコオロギ		要注目	陸域(森林)	照葉樹の樹皮下
119	昆虫類	コオロギ科	カワラスズ		要注目	陸域(裸地)	河原
120	昆虫類	マツムシ科	マツムシモドキ		要注目	その他	不明
121	昆虫類	バッタ科	カワラバッタ		県域準絶滅危惧	陸域(裸地)	河原
122	昆虫類	バッタ科	オマガリフキバッタ		要注目	陸域(森林)	森林内部や周辺部の下草や灌木
123	昆虫類	コオイムシ科	オオコオイムシ		県域準絶滅危惧	水域(止水)	水生植物が繁茂した浅いため池,湿地,休耕田
124	昆虫類	コオイムシ科	コオイムシ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	水生植物の繁茂した池や休耕田,水田わきの堀上
125	昆虫類	コオイムシ科	タガメ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	山間部のため池や農薬の影響のきわめて少ない水田周辺
126	昆虫類	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	準絶滅危惧	県域準絶滅危惧	水域(止水)	水生植物がある池や湿地・休耕田
127	昆虫類	ゲンゴロウ科	コガタノゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅰ類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	溜め池のような止水域や流れの緩やかな水路
128	昆虫類	ゲンゴロウ科	シャープゲンゴロウモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	池湿原のヨシ沼,休耕田,水田脇の水路などの泥深い場所
129	昆虫類	ゲンゴロウ科	マルガタゲンゴロウ		要注目	水域(止水)	水質や環境の良好な溜め池など
130	昆虫類	ミズスマシ科	コオナガミズスマシ		要注目	水域(流水)	流水性,川岸のよどみ,河川敷きの水溜まり

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
131	昆虫類	タマムシ科	オオムツボシタマムシ		要注目	陸域(森林)	クヌギ,カシ類などの枯材
132	昆虫類	タマムシ科	サシゲチビタマムシ		要注目	陸域(森林)	スダジイ
133	昆虫類	キスイムシ科	ガマキスイ		要注目	陸域+水域	ガマ原
134	昆虫類	ムキヒゲホソカタムシ科	イノウエホソカタムシ		要注目	陸域(森林)	広葉樹枯死木
135	昆虫類	テントウムシ科	クロジュウニホシテントウ		要注目	陸域(森林)	広葉樹林が豊かに残されている森
136	昆虫類	テントウムシ科	アミダテントウ		要注目	陸域(森林)	照葉樹林
137	昆虫類	テントウムシ科	ナカイケミヒメテントウ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	陸域+水域	湿原のヨシ
138	昆虫類	ナガクチキムシ科	ヒゲブトナガクチキ		要注目	陸域(森林)	クリ・ミズナラ明るい場所
139	昆虫類	ハナノミ科	ワモンオビハナノミ		要注目	陸域(森林)	クスノキ科など常緑広葉樹林
140	昆虫類	カミキリモドキ科	フタイロカミキリモドキ		要注目	陸域(森林)	常緑広葉樹林
141	昆虫類	チビキカワムシ科	クチナガチビキカワムシ		要注目	陸域(森林)	広葉樹枯死木
142	昆虫類	チビキカワムシ科	モンシロハネカクシダマシ		要注目	陸域(森林)	落葉広葉樹林
143	昆虫類	カミキリムシ科	ベーツヒラタカミキリ		要注目	陸域(森林)	常緑広葉樹林
144	昆虫類	カミキリムシ科	ヒラヤマコブハナカミキリ		要注目	陸域(森林)	アカメガシワの樹洞,広葉樹林
145	昆虫類	カミキリムシ科	ムナコブハナカミキリ		要注目	陸域(森林)	常緑広葉樹林
146	昆虫類	カミキリムシ科	ニッポンモモトコバナカミキリ		要注目	陸域(森林)	暖地性海岸林
147	昆虫類	カミキリムシ科	スネケブカヒロコバナカミキリ		要注目	陸域(森林)	ネムノキが寄生植物で,リョウブやカラスザンショウの花に訪花吸蜜
148	昆虫類	カミキリムシ科	キュウシュウチビトラカミキリ		要注目	陸域(森林)	シイ類や海岸地帯の植物
149	昆虫類	カミキリムシ科	ヤノトラカミキリ		要注目	陸域(森林)	エノキなど広葉樹林
150	昆虫類	カミキリムシ科	ヤツボシシロカミキリ		要注目	陸域(森林)	ズミ・ナナカマド
151	昆虫類	カミキリムシ科	クロオビトゲムネカミキリ		要注目	陸域(森林)	カシノキ,シイノキ,タブノキなど常緑広葉樹林
152	昆虫類	ハムシ科	イチモンジハムシ		要注目	陸域(森林)	暖帯林のイヌビワ・イタビ等
153	昆虫類	ヒゲナガゾウムシ科	ナガフトヒゲナガゾウムシ		要注目	陸域(森林)	ナラ伐採木
154	昆虫類	ミツギリゾウムシ科	チャバネホソミツギリゾウムシ	情報不足	要注目	陸域(森林)	広葉樹林
155	昆虫類	ミツギリゾウムシ科	ホソミツギリゾウムシ	情報不足	要注目	陸域(森林)	広葉樹林
156	昆虫類	ゾウムシ科	タカハシトゲゾウムシ		要注目	陸域(森林)	サクラ類
157	昆虫類	ゾウムシ科	キンケツツヒメゾウムシ		要注目	その他	不明
158	昆虫類	ゾウムシ科	ワモントゲトゲゾウムシ		要注目	陸域(裸地)	河川敷,海岸林
159	昆虫類	カギバラバチ科	ザウターカギバラバチ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	陸域(その他)	ヤナギ,ネムノキの葉に産卵.クルミやナシの木に甘露を求めて飛来.宿主はスズメバチ.
160	昆虫類	シリアゲコバチ科	オキナワシリアゲコバチ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	陸域(その他)	薪積みや材木置き場
161	昆虫類	セイボウ科	ミヤマツヤセイボウ	県域絶滅危惧Ⅰ類	要注目	陸域(森林)	風通しのよい日にアリマキの甘露や落葉広葉樹の梢や若葉に飛来
162	昆虫類	ツチバチ科	ウチダハラナガツチバチ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	その他	里山
163	昆虫類	アリ科	コツノアリ	県域絶滅危惧Ⅰ類	要注目	陸域(森林)	落葉広葉樹林の林下
164	昆虫類	アリ科	ケブカツヤオオアリ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	陸域+水域	山麓,河川敷の枯れ木
165	昆虫類	ベッコウバチ科	アケボノベッコウ	県域絶滅危惧Ⅰ類	要注目	陸域+水域	里地,里山,池,湿地,
166	昆虫類	ドロバチ科	アジアカタドロバチ	県域絶滅危惧Ⅰ類	要注目	陸域(森林)	樹林,竹筒
167	昆虫類	ドロバチ科	ハグロフタオビドロバチ	県域絶滅危惧Ⅰ類	要注目	陸域(裸地)	川沿いの竹筒やコウチュウ類が作った朽ち木の坑道内
168	昆虫類	ドロバチ科	フカイオオドロバチ	県域絶滅危惧Ⅰ類	要注目	水域(流水+止水)	河川地,低山帯の泥や粘土層の多い環境
169	昆虫類	スズメバチ科	チャイロスズメバチ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	陸域(その他)	モンズズメバチ・キイロスズメバチの一時的社会寄生者.
170	昆虫類	アナバチ科	フクイアナバチ	県域準絶滅危惧	要注目	陸域(裸地)	山道の道路脇,人家の庭や空き地などの地中に営巣
171	昆虫類	アナバチ科	フジジガバチ	県域準絶滅危惧	要注目	陸域(森林)	低山地に生息
172	昆虫類	アリマキバチ科	カラトイスカバチ	県域絶滅危惧Ⅰ類	要注目	陸域(その他)	古い木造の神社,寺院など
173	昆虫類	ギングチバチ科	タケウチギングチ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	陸域(森林)	常緑広葉樹林の立枯れ木
174	昆虫類	ギングチバチ科	ニトベギングチ	県域絶滅危惧Ⅱ類	要注目	陸域(森林)	立ち枯れ木

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
175	昆虫類	ギンギチバチ科	キュビギンギチ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(その他)	薪積み
176	昆虫類	ドロバチモドキ科	カワラアワフキバチ	情報不足	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(裸地)	河川敷のきれいな砂
177	昆虫類	ドロバチモドキ科	キアシハナダカバチモドキ	情報不足	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(裸地)	海岸の防風林,砂地
178	昆虫類	ドロバチモドキ科	ニッポンハナダカバチ	情報不足	県域準絶滅危惧	陸域(裸地)	乾燥した砂地,海岸,河川敷,湖畔
179	昆虫類	ムカシハナバチ科	コムカシハナバチ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(裸地)	河原,海岸
180	昆虫類	ヒメハナバチ科	コガタホオナガヒメハナバチ		県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(森林)	里山,ウグイスカズラ,ツクバネウツギに訪花
181	昆虫類	コシブトハナバチ科	イカズチキマダラハナバチ		県域準絶滅危惧	その他	低中山地
182	昆虫類	ボクトウガ科	ハイイロボクトウ		要注目	水域(流水+止水)	ヨシ原
183	昆虫類	セセリチョウ科	ホシチャバネセセリ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(草地)	食草オオアブラススキの生えた草地
184	昆虫類	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(裸地)	カワラケツメイの生える草地,海岸
185	昆虫類	シジミチョウ科	ヒサマツミドリシジミ		県域準絶滅危惧	陸域(森林)	幼虫の食樹ウラジロガシ(ブナ科)の休眠芽に産卵
186	陸生貝類	ヤマタニシ科	アツブタガイ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	温暖なやや乾燥した落葉樹木の落葉下
187	陸生貝類	イツマデガイ科	ヒメオカマメタニシ	準絶滅危惧	県域準絶滅危惧	陸域(森林)	海岸近くの灌木の林床
188	陸生貝類	キバサナギガイ科	ナタネキバサナギガイ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域+水域	里山の棚田の湿地や休耕田,湿潤な林床
189	陸生貝類	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	河川の堤内地や水田の畦周辺等の草木の繁茂した極めて湿潤な環境
190	陸生貝類	ナンバンマイマイ科	コベソマイマイ		県域絶滅危惧Ⅰ類	陸域(森林)	やや乾燥気味な落葉樹の根元や落葉の下
191	陸生貝類	ナンバンマイマイ科	ケハダビロウドマイマイ	情報不足	県域準絶滅危惧	陸域(森林)	自然度の高い落葉広葉樹林
192	陸生貝類	ナンバンマイマイ科	エチゼンビロウドマイマイ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	落葉広葉樹の落葉下
193	陸生貝類	オナジマイマイ科	エチゼンケマイマイ		県域絶滅危惧Ⅱ類	陸域(森林)	里山の落葉広葉樹の落葉下
194	陸生貝類	オナジマイマイ科	コガネマイマイ		県域準絶滅危惧	陸域(森林)	自然度の高い落葉広葉樹林
195	淡水産貝類	タニシ科	マルタニシ	準絶滅危惧	県域準絶滅危惧	水域(止水)	山麓の整備されていない水田や休耕田,池沼
196	淡水産貝類	ゴマツボ科	カワグチツボ		県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	湖沼,内湾や河口の,潮溜まりの緑藻
197	淡水産貝類	モノアラガイ科	モノアラガイ	準絶滅危惧	県域準絶滅危惧	水域(止水)	貧腐水性からβ中腐水性の小川の淀みや池沼
198	淡水産貝類	ヒラマキガイ科	カワネジガイ	絶滅危惧Ⅰ類	県域絶滅	水域(止水)	河川のワンド等の流れの緩やかな水域,ヨシやマコモ等の水中部分の茎や枯葉,水底の朽木・枯葉等
199	淡水産貝類	ヒラマキガイ科	ヒダリマキモノアラガイ	絶滅危惧Ⅰ類	県域絶滅	水域(止水)	池沼のヨシ帯やマコモ,カナダモ等の沈水植物があるところ
200	淡水産貝類	カワシンジュガイ科	カワシンジュガイ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅	水域(流水)	河川
201	淡水産貝類	イシガイ科	ササノハガイ		県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	湖沼,河川
202	淡水産貝類	イシガイ科	マツカサガイ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水)	砂礫質底の河川
203	淡水産貝類	イシガイ科	カラスガイ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅰ類	水域(止水)	湖沼や大河川の下流域,海岸部の潟湖やそれを起源とする湖沼
204	淡水産貝類	イシガイ科	フネドブガイ		要注目	水域(止水)	河川,湖沼
205	淡水産貝類	イシガイ科	マルドブガイ	絶滅危惧Ⅱ類	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(止水)	湖,小河川
206	淡水産貝類	イシガイ科	カタハガイ	準絶滅危惧	県域絶滅危惧Ⅱ類	水域(流水)	緩やかな流れのある小河川や農業用水路,湖沼等の砂泥底
207	植物	ミズゴケ科	オオミズゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	環境庁Ⅰ類	貧栄養湿地	貧栄養湿地
208	植物	ウキゴケ科	イチョウウキゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	環境庁Ⅰ類	水域(止水)	池や水田の水面
209	植物	ウキゴケ科	ウキゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	環境庁Ⅰ類	水域(止水)	きれいな水路や池,水田,湧水のある泉,人家の庭,畑
210	植物	シャジクモ科	シャジクモ類		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湖沼,溝,水田,川
211	植物	シャジクモ科	フラスコモ類		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湖沼,溝,水田
212	植物	ヒカゲノカズラ科	ミズスギ		—	貧栄養湿地	丘陵帯の丘陵地の湿った斜面
213	植物	ミズニラ科	ミズニラ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	谷間の湿地や湿田,ため池の浅水域
214	植物	トクサ科	ミズドクサ		(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	湖沼,河川,水路の浅水域や湿原
215	植物	ミズワラビ科	ミズワラビ		—	水域(止水)	池沼,水田,水路
216	植物	デンジソウ科	デンジソウ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	池沼,河川,溝,水田
217	植物	サンショウモ科	サンショウモ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	池沼,水路,水田
218	植物	アカウキクサ科	オオアカウキクサ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	水田,水路

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
219	植物	カバノキ科	サクラバハノキ	準絶滅危惧	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	山間部の河川・地沼の周縁部, 廃田, 造成地などの低湿地
220	植物	タデ科	ホソバイヌタデ	絶滅危惧ⅠB類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	河川ぎわなどの湿地
221	植物	タデ科	サデクサ		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	低地の水辺
222	植物	タデ科	ホソバウナギツカミ		—	水域(止水)	暖地の水辺
223	植物	ナデシコ科	フシグロセンノウ		—	陸域(草地)	湿度の高い林縁・道端, 山地の林下
224	植物	キンポウゲ科	ミチノクフクジュソウ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(草地)	落葉樹林下, 林縁
225	植物	キンポウゲ科	ミスミソウ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	陸域(森林)	落葉樹林下
226	植物	キンポウゲ科	アズマイチゲ		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(森林)	表土層の深い落葉樹林内
227	植物	キンポウゲ科	ヤマオダマキ		—	陸域(草地)	林縁や道ばたの草むら
228	植物	キンポウゲ科	オキナグサ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅)	陸域(草地)	日当たりのよい草原
229	植物	キンポウゲ科	バイカモ		(県域準絶滅危惧)	水域(流水)	河川, 水路, 湧水池
230	植物	スイレン科	ジュンサイ		(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	腐食栄養または貧～中栄養の湖沼やため池
231	植物	スイレン科	オニバス	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅)	水域(止水)	やや富栄養化した湖沼, ため池, 河川
232	植物	スイレン科	コウホネ		(要注目)	水域(止水)	湖沼, ため池, 河川, 水路
233	植物	スイレン科	ヒツジグサ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	腐食栄養または貧～中栄養の湖沼, ため池
234	植物	マツモ科	マツモ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼, ため池, 流れのゆるい河川や水路
235	植物	ドクダミ科	ハンゲショウ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	低地の水辺や湿地
236	植物	オトギリソウ科	トモエソウ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	陸域(草地)	山地の日当たりの良い草地
237	植物	モウセンゴケ科	モウセンゴケ		(要注目)	貧栄養湿地	日当たりの良い酸性湿地
238	植物	アブラナ科	ミズタガラシ		(要注目)	水域(止水)	水田や水湿地
239	植物	ユキノシタ科	タコノアシ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	泥湿地, 沼, 水田, 河原など水位の変動する場所に多い
240	植物	バラ科	ワレモコウ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	陸域(草地)	日当たりの良い丘, 山地の草原
241	植物	スミレ科	ヒゴスミレ		(要注目)	陸域(森林)	山地
242	植物	ミゾハコベ科	ミゾハコベ		(要注目)	水域(止水)	湖沼, ため池, 河川の水辺や水田
243	植物	ミソハギ科	ミズキカシグサ	絶滅危惧ⅠB類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	水田や湿地
244	植物	ミソハギ科	ミズマツバ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	水田や湿地
245	植物	ヒシ科	ヒメビシ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湖沼, ため池, 水路
246	植物	ヒシ科	ヒシ		(要注目)	水域(止水)	中～富栄養の湖沼, ため池, 河川, 水路のよどみ
247	植物	アカバナ科	ウスゲチョウジタデ	準絶滅危惧	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	水田や湿地
248	植物	アカバナ科	ミズユキノシタ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼, ため池, 河川, 水路
249	植物	アリノトウグサ科	ホザキノフサモ		(要注目)	水域(止水)	湖沼, ため池, 河川, 水路
250	植物	アリノトウグサ科	フサモ		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湖沼, ため池, 河川, 水路
251	植物	セリ科	ドクゼリ		(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	湖沼, ため池, 水路
252	植物	ツツジ科	レンゲツツジ		—	貧栄養湿地	山地の林縁地や草地
253	植物	サクラソウ科	ヤナギトラノオ		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湿原
254	植物	サクラソウ科	クサレダマ		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	山中の湿地
255	植物	リンドウ科	リンドウ		(要注目)	陸域(草地)	山野の日当たり
256	植物	リンドウ科	エゾリンドウ		—	水域(止水)	山地または北方の湿地
257	植物	リンドウ科	センブリ		—	陸域(草地)	山野の日当たり
258	植物	リンドウ科	ムラサキセンブリ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(草地)	山野の日当たり
259	植物	ミツガシワ科	ミツガシワ		(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	湖沼, 湿原内の池塘
260	植物	ミツガシワ科	ガガブタ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅)	水域(止水)	湖沼, ため池
261	植物	ミツガシワ科	アサザ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅)	水域(止水)	湖沼, ため池, 水路
262	植物	キョウチクトウ科	チョウジソウ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	川岸や原野のやや湿った草地

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
263	植物	ガガイモ科	スズサイコ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	陸域(草地)	日当たりの良いやや乾いた草地
264	植物	クマツヅラ科	コムラサキ	—	—	水域(止水)	湿地周辺
265	植物	アワゴケ科	ミズハコベ	—	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼,河川,水路,水田
266	植物	シソ科	ミズネコノオ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	水田や低湿地
267	植物	シソ科	ミズトラノオ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	低湿地
268	植物	シソ科	キセウタ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(草地)	山や丘陵の草地
269	植物	ゴマノハグサ科	マルバノサワトウガラシ	絶滅危惧ⅠB類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	水田や湿地
270	植物	ゴマノハグサ科	アブノメ	—	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	休耕田など湿地
271	植物	ゴマノハグサ科	シソクサ	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	休耕田など湿地
272	植物	ゴマノハグサ科	キクモ	—	—	水域(止水)	ため池,水路,水田
273	植物	ゴマ科	ヒシモドキ	絶滅危惧ⅠA類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湖沼,ため池,水路
274	植物	タヌキモ科	ノタヌキモ	—	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	中栄養の湖沼,ため池
275	植物	タヌキモ科	タヌキモ	—	—	水域(止水)	湖沼,ため池,水路,湿原の池塘
276	植物	タヌキモ科	イヌタヌキモ	—	—	水域(止水)	湖沼,ため池,水田やその側溝
277	植物	タヌキモ科	ミミカキグサ	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	貧栄養湿地	貧栄養湿地
278	植物	タヌキモ科	ホザキノミミカキグサ	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	貧栄養湿地	貧栄養湿地
279	植物	タヌキモ科	ムラサキミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	貧栄養湿地	貧栄養湿地,主として泥上
280	植物	オミナエシ科	オミナエシ	—	(県域準絶滅危惧)	陸域(草地)	日当たりの良い山の草地
281	植物	マツムシソウ科	マツムシソウ	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(草地)	山の草原
282	植物	キキョウ科	サワギキョウ	—	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	貧栄養湿地	山野の湿地
283	植物	キキョウ科	キキョウ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	陸域(草地)	山野の草地
284	植物	キク科	オケラ	—	(県域準絶滅危惧)	陸域(草地)	やや乾いた草原
285	植物	キク科	タウコギ	—	—	水域(止水)	水田のあぜ道や湿地
286	植物	キク科	モリアザミ	—	—	陸域(草地)	乾いた草原
287	植物	キク科	フジバカマ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	日当たりの良い湿地
288	植物	キク科	ミズギク	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	貧栄養湿地	山中の湧水湿地
289	植物	キク科	オグルマ	—	—	水域(止水)	湿地や田の縁,川岸
290	植物	キク科	ホソバオグルマ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湿地
291	植物	キク科	カセンソウ	—	(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	日当たりの良い湿地
292	植物	キク科	オオニガナ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	山中の湿地,休耕田
293	植物	キク科	ヒメヒゴタイ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(草地)	日当たりの良い草原
294	植物	キク科	キクアザミ	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(草地)	日当たりの良い山の草地
295	植物	キク科	タムラソウ	—	—	貧栄養湿地	山地の草原,山間の湧水湿地
296	植物	キク科	ヤマザトタンポポ	準絶滅危惧	(県域準絶滅危惧)	陸域(草地)	山麓の路傍や山地草原
297	植物	オモダカ科	マルバオモダカ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅)	水域(止水)	湖沼,ため池,水田
298	植物	オモダカ科	アギナシ	準絶滅危惧	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼,ため池,水田,湿地(オモダカより自然度の高い環境を好む)
299	植物	トチカガミ科	スプタ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	水田,ため池
300	植物	トチカガミ科	ヤナギスプタ	—	(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	水田,ため池,水路
301	植物	トチカガミ科	クロモ	—	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼,ため池,河川,水路
302	植物	トチカガミ科	トチカガミ	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	富栄養の湖沼,ため池,水路
303	植物	トチカガミ科	ミズオオバコ	—	(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	ため池,水路,水田
304	植物	トチカガミ科	セキショウモ	—	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(流水+止水)	湖沼,ため池,河川,水路,水路
305	植物	ヒルムシロ科	エビモ	—	(要注目)	水域(流水+止水)	湖沼,ため池,河川,水路などさまざまな水域
306	植物	ヒルムシロ科	コバノヒルムシロ	絶滅危惧ⅠB類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	ため池など

ID	分類群	科和名	種名	国RDBカテゴリ	福井県RDBカテゴリ	生息環境分類	主な生息環境の詳細
307	植物	ヒルムシロ科	フトヒルムシロ		—	水域(止水)	貧栄養～腐食栄養型の湖沼、湿原内の池塘や水路など酸性の水域を好む
308	植物	ヒルムシロ科	センニンモ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	池沼、ため池、河川、水路
309	植物	ヒルムシロ科	ササバモ		(県域準絶滅危惧)	水域(流水+止水)	池沼、河川、水路
310	植物	ヒルムシロ科	ホソバミズヒキモ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	ため池、水路
311	植物	ヒルムシロ科	ヒロハノエビモ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼、稀に河川
312	植物	ヒルムシロ科	イトモ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼、ため池、水路
313	植物	イバラモ科	イバラモ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼、ため池、河川、水路
314	植物	イバラモ科	ホッソモ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	貧栄養のため池、山間の水田
315	植物	イバラモ科	イトトリゲモ	絶滅危惧ⅠB類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	貧栄養のため池、水田
316	植物	イバラモ科	ヒロハトリゲモ	絶滅危惧ⅠB類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	ため池や水田(特に山間部の水田)
317	植物	ユリ科	カタクリ		—	陸域(森林)	山野
318	植物	ユリ科	ミノコバイモ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(森林)	落葉広葉樹林下
319	植物	ユリ科	キバナノアマナ		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	陸域(森林)	日当たりの良い草地や林縁
320	植物	ユリ科	コオニユリ		—	貧栄養湿地	山地の草地、湿地
321	植物	ミズアオイ科	ミズアオイ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湖沼、河川、水路の浅水域や水田(とくに休耕田)
322	植物	アヤメ科	ノハナショウブ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	貧栄養湿地	丘陵帯～山地帯の川辺や湖沼など日当たりのよい水湿地
323	植物	アヤメ科	カキツバタ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	貧栄養湿地	込む水路や水田
324	植物	ホシクサ科	クロホシクサ	絶滅危惧ⅠB類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	低地の水湿地や水田
325	植物	イネ科	ツクシガヤ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	河川ぎわなどの湿地
326	植物	イネ科	ヌマガヤ		(県域準絶滅危惧)	貧栄養湿地	湿地、ときに高山帯の湿った斜面
327	植物	サトイモ科	ショウブ		(要注目)	水域(止水)	湖沼、ため池、湿地
328	植物	サトイモ科	ミズバショウ		(要注目)	水域(止水)	湿原やまばらな林下の湿地
329	植物	サトイモ科	オオハング		(県域準絶滅危惧)	陸域(森林)	山地の常緑樹林下
330	植物	サトイモ科	ヒメザゼンソウ		(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	林縁や道ばたの湿地
331	植物	ミクリ科	ミクリ	準絶滅危惧	(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	湖沼、河川、水路
332	植物	ミクリ科	ヤマトミクリ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	水域(止水)	湖沼、ため池に多く、河川など流水域ではまれ
333	植物	ミクリ科	タマミクリ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅰ類)	水域(止水)	湖沼、河川、水路、湿原の池塘
334	植物	ミクリ科	ナガエミクリ	準絶滅危惧	(県域準絶滅危惧)	水域(流水)	湖沼、ため池、河川、水路、水路、流水域に多い
335	植物	ガマ科	コガマ		(県域準絶滅危惧)	水域(止水)	湖沼、ため池、水路、休耕田
336	植物	カヤツリグサ科	ウキヤガラ		—	水域(止水)	湖沼、ため池、河川などの浅水域～水辺の湿地
337	植物	ラン科	サワラン		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	貧栄養湿地	ミズゴケ湿地
338	植物	ラン科	カキラン		—	貧栄養湿地	丘陵地の湧水湿地、山間の湿地
339	植物	ラン科	サギソウ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅)	貧栄養湿地	丘陵地の湧水湿地、山間の湿地
340	植物	ラン科	ミズトンボ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	貧栄養湿地	丘陵地の湧水湿地、山間の湿地
341	植物	ラン科	ミズチドリ		(県域絶滅危惧Ⅰ類)	貧栄養湿地	山間の湿地
342	植物	ラン科	コバノトンボソウ		(県域準絶滅危惧)	貧栄養湿地	日当たりの良い湿った草原
343	植物	ラン科	トキソウ	絶滅危惧Ⅱ類	(県域絶滅危惧Ⅱ類)	貧栄養湿地	山間の日当たりの良い湿地
344	植物	ラン科	トンボソウ		(県域絶滅危惧Ⅱ類)	陸域(森林)	山下の樹林下、湿った場所

資料 2 調査票

重要里地里山選定調査 調査票(コウモリ捕獲用)

記入者名	姓	名
調査地番号		
調査地名	市町村	地区・集落
標高	m	
調査位置	北緯:	東経:
	左記の地点を中心とした 半径: m の範囲	

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲の環境

写真提出時の 識別番号	
林環境(択一式)	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地環境(択一)	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域環境(択一)	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地(択一)	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物(択一)	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他(択一)	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候					

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は”なし”とすること)

和名		提出可能な確認物:写真・標本	確認物提出時の番号: Ma- -
同定者			
調査方法	☐ 直接観察 ☐ 捕獲 ☐ 聞き取り ☐ 採集 ☐ その他()		
確認項目	☐ 姿 ☐ 鳴き声 ☐ 糞 ☐ その他()		
目撃した環境	☐ 常緑広葉樹(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等湿性の草本) ☐ 落葉広葉樹(コナラ・クリ等) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い雑草) ☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ アカマツ林 ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 開放水域 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 河川敷、グランド・道路・造成地などの裸地 ☐ 不明 ☐ 林縁地(ツル植物、低木・竹林など) ☐ 構造物 家屋・鉄塔・架橋など ☐ その他		
環境の人為的影響	☐ 人工的 ☐ 代償的 ☐ 潜在的		
環境利用	☐ 採餌 ☐ 隠れ場(休息) ☐ 繁殖確認 ☐ 繁殖の可能性 ☐ ねぐら ☐ 不明		
備考 (計測値など)			

重要里地里山選定調査 調査票(洞穴棲コウモリ用)

記入者名	姓		名	
調査地番号				
調査地名	市町村		地区・集落	
標高	m			
調査位置	北緯:		東経:	左記の地点を中心とした 半径: m の範囲

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲の環境

写真提出時の 識別番号				
林環境(択一式)	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他			
草地環境(択一式)	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他			
水域環境(択一式)	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他			
平地(択一式)	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他			
構造物(択一式)	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他			
その他(択一式)	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他			

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候					

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は”なし”とすること)

和名		提出可能な確認物:写真・標本	確認物提出時の番号: Ma-□□-□□□
同定者		調査方法 視認・捕獲	
調査方法	☐ 直接観察 ☐ 捕獲 ☐ 聞き取り ☐ 採集 ☐ その他		
確認項目	☐ 姿 ☐ 鳴き声 ☐ 巣 ☐ 食痕 ☐ 足跡、爪あと ☐ 糞 ☐ その他()		
洞穴環境の 詳細	洞穴の種類: ☐ 古い隋道 ☐ 使用中隋道 ☐ 採石跡 ☐ 防空壕跡 ☐ その他()		
	洞穴の入り口の大きさ(高さ) ☐ <1m ☐ 1~2m ☐ 2~5m ☐ 5m<		
	洞穴の入り口の大きさ(幅) ☐ <1m ☐ 1~2m ☐ 2~5m ☐ 5m<		
	洞穴の奥行き ☐ <5m ☐ 5~10m ☐ 10m<		
	洞穴内の天井の高さ ☐ <1m ☐ 1~2m ☐ 2~5m ☐ 5m<		
	洞穴内の地面の水 ☐ 水なし ☐ <10cm ☐ 10cm<		
	洞穴内の気温 °C		
	洞穴外の気温 °C		
1個所で複数目撃した場合の個体数	1~10(個体) ・ 10~50 ・ 50~100 ・ 100以上		
生息地のランク	☐ 繁殖を確認 ☐ 繁殖は確認していないが、繁殖の可能性はある。 ☐ 繁殖の可能性は不明 ☐ 越冬地 ☐ 生息は確認できなかった。		
同所的に確認した種	☐ あり(種) ☐ なし ☐ 不明		
備考			

重要里地里山選定調査 調査票(リス・ムササビ・モモンガ用)

記入者名	姓	名	
調査地番号			
調査地名	市町村	地区・集落	
標高	m		
調査位置	北緯:	東経:	左記の地点を中心とした 半径: m の範囲

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲の環境

写真提出時の 識別番号	
林環境(択一式)	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地環境(択一)	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域環境(択一)	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地(択一)	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物(択一)	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他(択一)	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候					

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は”なし”とすること)

和名	☐ ムササビ ☐ ニホンリス ☐ モモンガ ☐ なし	提出可能な確認物: 写真・標本	確認物提出時の番号: Ma- -
同定者			
調査方法	☐ 直接観察 ☐ 捕獲 ☐ 聞き取り ☐ 採集 ☐ その他		
確認項目	☐ 姿 ☐ 鳴き声 ☐ 巣 ☐ 食痕 ☐ 足跡、爪あと ☐ 糞 ☐ その他()		
1個所で複数目撃した場合の個体数	個体		
目撃した環境	☐ 常緑広葉樹(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ ☐ スギ・ヒノキ ☐ 林縁地(ツル植物、低木・竹林など) ☐ 不明 ☐ その他		
環境区分	☐ 人工植林地 ☐ 社寺林 ☐ 代償的(二次林など) ☐ 潜在的(自然林など) ☐ 不明 ☐ その他		
樹木の胸高直径	約 cm		
半径10m以内に樹洞の有無	☐ あり ☐ なし ☐ 不明 ☐ その他		
備考			

重要里地山選定調査 調査票(カヤネズミ用)

記入者名	姓	名
調査地番号		
調査地名	市町村	地区・集落
標高	m	
調査位置	北緯:	東経:
		左記の地点を中心とした半径: m の範囲

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲の環境

写真提出時の 識別番号	
林環境(択一式)	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カン・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地環境(択一式)	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域環境(択一式)	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地(択一式)	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物(択一式)	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他(択一式)	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候					

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は”なし”とすること)

和名	☐ カヤネズミ ☐ なし	提出可能な確認物: 写真・標本	確認物提出時の番号: Ma- -
同定者			
調査方法	☐ 直接観察 ☐ 捕獲 ☐ 聞き取り ☐ 採集 ☐ その他		
確認項目:	姿・巣・食痕・その他()		
1個所(10m2)で複数目撃した場合の巣の個数	個		
巣の新旧	☐ 古い(崩れている) ☐ やや古い(形は整っているが巣材は枯れている) ☐ 新しい(枯れていない巣材が混じる) ☐ 不明 ☐ その他		
巣のある草本植物	☐ イネ科 ☐ スゲ属 ☐ ヨシ属 ☐ 不明 ☐ その他		
巣のある場所	巣のある場所: ☐ 河川敷 ☐ 河川堤防 ☐ 湿地・湿原 ☐ 湖岸 ☐ 休耕田 ☐ 耕作放棄地 ☐ 水田 ☐ 畑 ☐ ため池 ☐ 農業用水路 ☐ 道路法面 ☐ 造成地 ☐ 不明 ☐ その他		
巣のある周辺の草刈	巣のある周辺の草刈 ☐ 草刈なし ☐ 一部草刈あり ☐ ほとんどすべて草刈 ☐ 不明 ☐ その他		
備考			

重要里地里山選定調査 調査票（鳥類用）

記入者名	姓	名
調査地番号		
調査地名	市町村	地区・集落
標高	m	
調査位置	北緯：	東経：
	左記の地点を中心とした半径： m の範囲	

※調査地の地図の写しを裏面に貼付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること（未記入でも可）。

調査（確認）地周辺の環境

写真提出時の識別番号	AV-□□-□□□□-()-□□
林	☐ 常緑広葉樹林（シイ・カシ・タブノキ等） ☐ 落葉広葉樹林（コナラ・クリ等） ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林（針葉樹と広葉樹のパッチ状林） ☐ 該当せず ☐ その他
草地	☐ 陸生の草地（ササ・ススキ等背が高い） ☐ 陸生の草地（シバ・チガヤ等背が低い） ☐ 湿性の草地（ヨシ、ミゾソバ等湿性草本） ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川（水路） ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地	☐ 水田（営農・休耕・放棄） ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋（木造家屋・神社仏閣などの建築物など） ☐ 該当せず ☐ その他
その他	☐ 洞穴 ☐ 林道 ☐ 林縁地（ツル植物、低木） ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他

調査開始日時	200 年	月	日	時	分
調査終了日時		月	日	時	分
天候					

※主要な対象種および補足的な種名（記録されなかった場合は”なし”とすること）

和 名※		提出可能な確認物： 写真・標本	確認物提出時の番号： AV-□□-□□□□
同定者			
調査方法	☐ 直接観察 ☐ 捕獲 ☐ 聞き取り ☐ 採集 ☐ その他		
確認項目	☐ 姿 ☐ 地なき ☐ さえずり ☐ 巢 ☐ 食痕 ☐ 足跡、爪あと ☐ 糞 ☐ その他（ ）		
1 個所で複数目撃した場合の個体数	個体		
目撃した環境	☐ 常緑広葉樹（シイ・カシ・タブノキ等） ☐ 落葉広葉樹（コナラ・クリ等） ☐ アカマツ ☐ スギ・ヒノキ ☐ 林縁地（ツル植物、低木・竹林など） ☐ 陸生の草地（ササ・ススキ等背が高い） ☐ 陸生の草地（シバ・チガヤ等背が低い）雑草 ☐ 水田（営農・休耕・放棄） ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 開放水域 ☐ 河川敷、グラウンド・道路・造成地などの裸地 ☐ その他 ☐ 構造物 家屋・鉄塔・架橋など		
環境の人為的影響	☐ 人工的 ☐ 代償的 ☐ 潜在的		
環境利用	☐ 希薄（上空通過） ☐ 採餌 ☐ 隠れ場（休息） ☐ 繁殖確認 ☐ 繁殖の可能性 ☐ ねぐら ☐ 不明		
生息ランク	☐ 繁殖地 ☐ 繁殖地の可能性 ☐ 渡りの中継地 ☐ 越冬地 ☐ 不明		
その他目撃種	☐ アカアシシギ ☐ ウミアイサ ☐ オオアカゲラ ☐ オオワシ ☐ オジロワシ ☐ カヤクグリ ☐ カリガネ ☐ カラフトアオアシシギ' ☐ カワアイサ ☐ キバシリ ☐ クロガモ ☐ コアジサシ ☐ コカガン ☐ シロガモ ☐ シロチドリ ☐ セイタカシギ ☐ チゴ'モズ' ☐ ツクシガモ ☐ ツバ'メチドリ ☐ トモエガモ ☐ ハクガン ☐ ビ'ロードキンクロ ☐ フ'ッホ'ウソウ ☐ ヘラシギ ☐ ホ'オジ'ロガモ ☐ ヤマセミ ☐ 確認なし		
備 考			

注：チェックボックスは、すべての項目に対し記入し、択一で行うこと。

重要里地里山選定調査 調査票(両生類・爬虫類用)

記入者名	姓 名		
調査地番号			
調査地名	市町村		地区・集落
標高	m		
調査位置	北緯:	東経:	左記の地点を中心とした半径: m の範囲

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲の環境

写真提出時の 識別番号			
林環境(択一式)	☐常緑広葉樹林(シイ・カシ・タブノキ等) ☐落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐アカマツ林 ☐スギ・ヒノキ林 ☐針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐該当せず ☐その他		
草地環境(択一)	☐陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐沈水・浮葉植物 ☐該当せず ☐その他		
水域環境(択一)	☐湖 ☐河川 ☐小川(水路) ☐ため池 ☐該当せず ☐その他		
平地(択一)	☐水田(営農・休耕・放棄) ☐畑地・転作地・果樹園など ☐集落内・市街地・造成地など ☐該当せず ☐その他		
構造物(択一)	☐隧道 ☐鉄塔・橋など ☐家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐該当せず ☐その他		
その他(択一)	☐洞穴 ☐道(登山道・作業道・舗装道路) ☐林縁地(ツル植物、低木) ☐河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐その他		

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候(択一)	☐快晴 ☐晴れ ☐曇り ☐霧 ☐雨 ☐雪 ☐その他				

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は”なし”とすること)

和名※		確認物: ☐ 写真 ☐ 標本	確認物提出時の番号:
同定者			
調査方法(択一)	☐視認 ☐採集 ☐写真 ☐その他		
種に関する特記 事項	確認したもの(択一) ☐捕獲 ☐目撃 ☐鳴き声 ☐卵 ☐死体 ☐脱皮殻 ☐その他		
	生育状況(択一) ☐幼生 ☐幼体 ☐成体・亜成体 ☐その他 ☐わからない		
	メモ		

生息・生育環境の詳細

水域の主な底質(択一)	☐シルト ☐泥 ☐砂 ☐礫 ☐岩 ☐コンクリート ☐その他
水際の主な護岸(択一)	☐土 ☐石積み ☐コンクリート ☐その他
コンクリート護岸の主な高さ(択一)	☐0-10cm ☐10-50cm ☐50-100cm ☐100cm～
水の流れ(択一)	☐流水 ☐わずかに流水 ☐止水
うろの有無(択一)	☐有り ☐無し
採餌環境(択一)	☐良好 ☐悪化 ☐破壊 ☐不明
メモ	

同じ場所で、対象種が複数種生育していた場合、2枚目以降に記載すること。その際は種の記録の欄のみ記載し、ホチキス止めすること

重要里地里山選定調査 調査票(魚類用)

記入者名	姓	名	
調査地番号			
調査地名	市町村	地区・集落	
標高	m		
調査位置	北緯:	東経:	左記の地点を中心とした 半径: m の範囲

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲の環境

写真提出時の 識別番号	
林環境(択一式)	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地環境(択一)	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域環境(択一)	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地(択一)	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物(択一)	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他(択一)	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候(択一)	☐ 快晴 ☐ 晴れ ☐ 曇り ☐ 霧 ☐ 雨 ☐ 雪 ☐ その他				

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は”なし”とすること)

和名※		確認物: ☐ 写真 ☐ 標本	確認物提出時の番号:
同定者			
主な調査方法	(択一) ☐ たも網 ☐ さで網 ☐ 投網 ☐ セルビン・もんどり ☐ かごわな ☐ その他		
種に関する特記 事項	生息状況(択一式) ☐ 卵 ☐ 稚魚 ☐ 成魚 ☐ その他		
	回遊魚の遡上の可能性(択一式) ☐ 可能 ☐ 不可能 ☐ 不明		
	水路・ため池から他所への移動の可能性(択一式) ☐ 可能 ☐ 不可能 ☐ 不明		

生息・生育環境の詳細

水系(択一)	()川水系 ☐ その他		
水温	()度		
流域(択一)	☐ 上流域 ☐ 中流域 ☐ 下流域 ☐ 河口域		
流速(択一)	☐ 0-5cm/s ☐ 5-10cm/s ☐ 10-50cm/s ☐ 50-100cm/s ☐ 100cm/s-		
水深(択一)	☐ 0-10cm ☐ 10-50cm ☐ 50-100cm ☐ 100cm~		
河川・水路の場合、幅(択一)	☐ 50cm未満 ☐ 50-100cm ☐ 100-200cm ☐ 200cm-		
水路の場合、構造(択一)	☐ 3面張り ☐ 2面張り ☐ 片面張り ☐ 土水路		
水際の主な護岸(択一)	☐ 土 ☐ 石積み ☐ コンクリート ☐ その他		
ため池の場合、縦断長さ(択一)	☐ 10m未満 ☐ 10-50m ☐ 50-100m ☐ 100m以上		
ため池の場合、立地状況(択一)	☐ 谷池(谷のせき止め) ☐ 皿池(平地に存在) ☐ その他		
調査地周辺のコンクリート護岸の割合(択一)	☐ なし ☐ 一部 ☐ 全部または大部分		
水域の主な底質(択一)	☐ シルト ☐ 泥 ☐ 砂 ☐ 礫 ☐ 岩 ☐ コンクリート ☐ その他		
水生植物の種類(複数選択)	☐ 湿生・抽水植物 ☐ 沈水植物 ☐ 浮葉植物 ☐ 浮遊植物 ☐ なし		
水生植物の主な生育場所(択一)	☐ 岸辺のみ ☐ 水中のみ ☐ 岸辺と水中 ☐ なし		
水生植物の主な被植率(択一)	☐ なし ☐ 10%以下 ☐ 10-25% ☐ 25-50% ☐ 50%以上		
在来種の生育を脅かす外来種の有無(択一)	☐ 有り ☐ 無し ☐ 不明		
その他メモ (自由記載)			

同じ場所で、対象種が複数種生育していた場合、2枚目以降に記載すること。その際は種の記録の欄のみ記載し、ホチキス止めすること

重要里地里山選定調査 調査票（昆虫部会：トンボ目・水生昆虫類）

記入者名	姓	名	
調査地番号			
調査地名	市町村		地区・集落
標高		m	
調査位置	北緯： ° ' "	東経： ° ' "	左記の地点を中心とした 半径： m の範囲

調査（確認）地周辺の環境

写真提出時の識別番号	En-□□-□□□□-()-□□
林	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カン・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他
調査開始日時	200 年 月 日 時 分 から
調査終了日時	200 年 月 日 時 分 まで
天候	☐ 快晴 ☐ 晴 ☐ 曇 ☐ 霧 ☐ 雨 ☐ 雪 ☐ その他

調査（確認）種の記録

和名		提出可能な確認物	☐ 写真 ☐ 標本
同定者		確認物提出時の番号	En-□□-□□□
調査方法	☐ 任意採集 ☐ スニーピング ☐ ビーティング ☐ ライトトラップ ☐ ベイトトラップ ☐ もんどり ☐ 衝突板トラップ ☐ その他	※調査内容を具体的に記載	
成虫の個体数	☐ 0 ☐ 1～5 ☐ ～10 ☐ ～50 ☐ 50～ ☐ 不明	幼虫の生息	☐ 有り ☐ 無し ☐ 不明
備考			

環境の詳細（トンボ目・水生昆虫類）

水位	☐ 0cm ☐ 0～10cm ☐ 10～50cm ☐ 50cm～ ☐ 該当せず ☐ わからない
護岸の状況	☐ 土 ☐ 自然石 ☐ コンクリート ☐ 該当せず ☐ わからない
浮葉植物	☐ 有り ☐ 無し ☐ 該当せず ☐ わからない
沈水植物	☐ 有り ☐ 無し ☐ 該当せず ☐ わからない
流水の状況	☐ 止水 ☐ わずかに流水 ☐ 流水 ☐ 該当せず ☐ わからない
生息を脅かす外来種	☐ アメリカザリガニ ☐ 外来魚 ☐ 確認されず ☐ 調査せず ☐ 該当せず ☐ わからない

重要里地里山選定調査 調査票（昆虫部会：コウチュウ目）

記入者名	姓	名	
調査地番号			
調査地名	市町村		地区・集落
標高		m	
調査位置	北緯：° ' "	東経：° ' "	左記の地点を中心とした半径：m の範囲

調査（確認）地周辺の環境

写真提出時の識別番号	En-□□-□□□□-()-□□
林	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カン・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他
調査開始日時	200 年 月 日 時 分 から
調査終了日時	200 年 月 日 時 分 まで
天候	☐ 快晴 ☐ 晴 ☐ 曇 ☐ 霧 ☐ 雨 ☐ 雪 ☐ その他

調査（確認）種の記録

和名		提出可能な確認物	☐ 写真 ☐ 標本
同定者		確認物提出時の番号	En-□□-□□□□
調査方法	☐ 任意採集 ☐ スニーピング ☐ ビーティング ☐ ライトトラップ ☐ ベイトトラップ ☐ もんどり ☐ 衝突板トラップ ☐ その他	※調査内容を具体的に記載	
成虫の個体数	☐ 0 ☐ 1～5 ☐ ～10 ☐ ～50 ☐ 50～ ☐ 不明	幼虫の生息	☐ 有り ☐ 無し ☐ 不明
備考			

環境の詳細（コウチュウ目）

林内の明るさ	☐ 明るい ☐ 暗い ☐ 該当せず ☐ わからない
下層植生（草本）	☐ 密 ☐ 疎 ☐ 無し ☐ わからない
下層植生（ササ）	☐ 密 ☐ 疎 ☐ 無し ☐ わからない
開花	☐ 有り ☐ 無し ☐ わからない
枯死木	☐ ほとんどない ☐ 少しある ☐ 目立つ ☐ 多い ☐ わからない
伐採木	☐ 有り ☐ 無し ☐ わからない

重要里地里山選定調査 調査票（昆虫部会：ハチ目）

記入者名	姓	名	
調査地番号			
調査地名	市町村		地区・集落
標高		m	
調査位置	北緯： ° ' "	東経： ° ' "	左記の地点を中心とした 半径： m の範囲

調査（確認）地周辺の環境

写真提出時の識別番号	En-□□-□□□□-()-□□
林	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カン・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他
調査開始日時	200 年 月 日 時 分 から
調査終了日時	200 年 月 日 時 分 まで
天候	☐ 快晴 ☐ 晴 ☐ 曇 ☐ 霧 ☐ 雨 ☐ 雪 ☐ その他

調査（確認）種の記録

和名		提出可能な確認物	☐ 写真 ☐ 標本
同定者		確認物提出時の番号	En-□□-□□□□
調査方法	☐ 任意採集 ☐ スイーピング ☐ ビーティング ☐ ライトトラップ ☐ ベイトトラップ ☐ もんどり ☐ 衝突板トラップ ☐ その他	※調査内容を具体的に記載	
成虫の個体数	☐ 0 ☐ 1～5 ☐ ～10 ☐ ～50 ☐ 50～ ☐ 不明	幼虫の生息	☐ 有り ☐ 無し ☐ 不明
備考			

環境の詳細（ハチ目）

林内の明るさ	☐ 明るい ☐ 暗い ☐ 該当せず ☐ わからない
草地の状態	☐ 密 ☐ 疎 ☐ 無し ☐ わからない
地面の状況	☐ 土 ☐ 石 ☐ 舗装 ☐ 植生が繁茂 ☐ 草刈り後 ☐ わからない
護岸の状況	☐ 土 ☐ 自然石 ☐ コンクリート ☐ 該当せず ☐ わからない
人為的営巣環境	☐ 有り ☐ 無し ☐ わからない
天然営巣環境	☐ 有り ☐ 無し ☐ わからない

重要里地里山選定調査 調査票（昆虫部会：チョウ目・バッタ目）

記入者名	姓	名	
調査地番号			
調査地名	市町村		地区・集落
標高		m	
調査位置	北緯：° ' "	東経：° ' "	左記の地点を中心とした半径：m の範囲

調査（確認）地周辺の環境

写真提出時の識別番号	En-□□-□□□□-()-□□
林	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カン・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他
調査開始日時	200 年 月 日 時 分 から
調査終了日時	200 年 月 日 時 分 まで
天候	☐ 快晴 ☐ 晴 ☐ 曇 ☐ 霧 ☐ 雨 ☐ 雪 ☐ その他

調査（確認）種の記録

和名		提出可能な確認物	☐ 写真 ☐ 標本
同定者		確認物提出時の番号	En-□□-□□□
調査方法	☐ 任意採集 ☐ スイーピング ☐ ビーティング ☐ ライトトラップ ☐ ベイトトラップ ☐ もんどり ☐ 衝突板トラップ ☐ その他	※調査内容を具体的に記入	
成虫の個体数	☐ 0 ☐ 1～5 ☐ ～10 ☐ ～50 ☐ 50～ ☐ 不明	幼虫の生息	☐ 有り ☐ 無し ☐ 不明
備考			

環境の詳細（チョウ目・バッタ目）

環境の好適性	☐ 適 ☐ 不適 ☐ わからない
対象種名	※生息確認ができていない場合に記入
備考	

重要里地里山選定調査 調査票(貝類)

記入者名	姓	名
調査地番号		
調査地名	市町村	地区・集落
標高	m	
調査位置	北緯:	東経:
	左記の地点を中心とした 半径: m の範囲	

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲の環境

写真提出時の 識別番号	
林環境(択一式)	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地環境(択一)	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域環境(択一)	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地(択一)	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物(択一)	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他(択一)	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候(択一)	☐ 快晴 ☐ 晴れ ☐ 曇り ☐ 霧 ☐ 雨 ☐ 雪 ☐ その他				

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は"なし"とすること)

和名※		確認物: ☐ 写真 ☐ 標本	確認物提出時の番号:
同定者			
調査方法(択一)	☐ 視認 ☐ 採集 ☐ 写真 ☐ その他		
種に関する特記 事項	生育状況(卵・幼生・成体) ☐ 卵 ☐ 幼体 ☐ 成体 ☐ 死殻		
	その他の貝類(あれば記載)		
	メモ		

生息・生育環境の詳細

水域の主な底質(択一)	☐ シルト ☐ 泥 ☐ 砂 ☐ 礫 ☐ 岩 ☐ コンクリート ☐ その他
水際の主な護岸(択一)	☐ 土 ☐ 石積み ☐ コンクリート ☐ その他
水系(択一)	☐ () 川水系 ☐ 谷池 ☐ 皿池 ☐ その他
水深(択一)	☐ 0-10cm ☐ 10-50cm ☐ 50-100cm ☐ 100cm～

同じ場所で、対象種が複数種生育していた場合、2枚目以降に記載すること。その際は種の記録の欄のみ記載し、ホチキス止めすること

重要里地里山選定調査 調査票(植物用)

記入者名	姓	名
調査地番号		
調査地名	市町村	地区・集落
標高	m	
調査位置	北緯:	東経:
	左記の地点を中心とした 半径: m の範囲	

※調査地の地図の写しを添付し、調査地の中心地もしくは、調査対象種が記録された地点を×印で記入すること。北緯、東経は、パソコンの入力ツールを用いて記入すること(未記入でも可)。

●調査(確認)地の周囲(半径10m)の環境

写真提出時の 識別番号	
林環境(択一式)	☐ 常緑広葉樹林(シイ・カシ・タブノキ等) ☐ 落葉広葉樹林(コナラ・クリ等) ☐ アカマツ林 ☐ スギ・ヒノキ林 ☐ 針広混交林(針葉樹と広葉樹のパッチ状林) ☐ 該当せず ☐ その他
草地環境(択一)	☐ 陸生の草地(ササ・ススキ等背が高い) ☐ 陸生の草地(シバ・チガヤ等背が低い) ☐ 湿性の草地(ヨシ、ミゾソバ等の湿性草本) ☐ 沈水・浮葉植物 ☐ 該当せず ☐ その他
水域環境(択一)	☐ 湖 ☐ 河川 ☐ 小川(水路) ☐ ため池 ☐ 該当せず ☐ その他
平地(択一)	☐ 水田(営農・休耕・放棄) ☐ 畑地・転作地・果樹園など ☐ 集落内・市街地・造成地など ☐ 該当せず ☐ その他
構造物(択一)	☐ 隧道 ☐ 鉄塔・橋など ☐ 家屋(木造家屋・神社仏閣などの建築物など) ☐ 該当せず ☐ その他
その他(択一)	☐ 洞穴 ☐ 道(登山道・作業道・舗装道路) ☐ 林縁地(ツル植物、低木) ☐ 河川敷の裸地 ☐ 該当せず ☐ その他

調査開始日時	200 年	月	日	時	分から
調査終了日時		月	日	時	分まで
天候(択一)	☐ 快晴 ☐ 晴れ ☐ 曇り ☐ 霧 ☐ 雨 ☐ 雪 ☐ その他				

●調査(確認)種の記録

※記録された種和名(絶滅危惧種および指標種名、記録されなかった場合は”なし”とすること)

和名※		確認物: ☐ 写真 ☐ 標本	確認物提出時の番号:
同定者			
調査方法(択一)	☐ 視認 ☐ 採集 ☐ 写真 ☐ その他		
種に関する特記 事項	個体数が非常に少ない場合、株数 約 _____ 株		
	群落面積が非常に小さい場合、面積 約 _____ m ² メモ		

生息・生育環境の詳細

生育地の乾湿(択一)	☐ 乾 ☐ 適 ☐ 湿 ☐ 過湿
水深(択一)	☐ 0-10cm ☐ 10-50cm ☐ 50-100cm ☐ 100cm～
水際の主な護岸(択一)	☐ 土 ☐ 石積み ☐ コンクリート ☐ その他
水域の主な底質(択一)	☐ 泥 ☐ 砂 ☐ コンクリート ☐ その他
水域のコンクリート護岸の割合(択一)	☐ なし ☐ 一部 ☐ 全部または大部分
対象種を含む水域の植物の種類(複数選択)	☐ 湿生・抽水植物 ☐ 沈水植物 ☐ 浮葉植物 ☐ 浮遊植物 ☐ なし
水田の場合、田の管理(択一)	☐ 水稻栽培 ☐ 放置 ☐ 耕起して放置 ☐ 水張り休耕(除草剤なし) ☐ 水張り休耕(除草剤使用) ☐ 麦など転作 ☐ その他
周辺の草刈りの有無(択一)	☐ 有り ☐ 無し ☐ その他 ☐ 不明
ため池の場合、立地状況(択一)	☐ 谷池(谷のせき止め) ☐ 皿池(平地に存在) ☐ その他 ☐ 不明
貧栄養湿地の場合、湿地の面積	約 _____ m ²
メモ(自由記載)	

同じ場所で、対象種が複数種生育していた場合、2枚目以降に記載すること。その際は種の記録の欄のみ記載し、ホチキス止めすること

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying the majority of the page below the header. It is intended for pasting a map.

資料3 「福井県重要里地里山」一覧

「福井県重要里地里山」一覧

*選定基準

選定にあたっては、農林業などの生産や生活と深く関わって成立している地域を対象とし、その基準は以下のとおりとした。

A: その地域を含む周辺の里地里山で県レッドデータブック掲載種(県RDB種)が、多種確認されている

B-1: 県RDB種の県内の代表的な生息地である

B-2: 県RDB種の繁殖地、越冬地、または旅鳥の重要な中継地点になっている

B-3: 県RDB種の県内唯一の生息地である

ただし、以下の条件に含まれる地区は、選定基準を満たしていても選定対象としなかった

①現地調査の段階で、環境変化により、調査対象種がほとんど記録されなかった地区

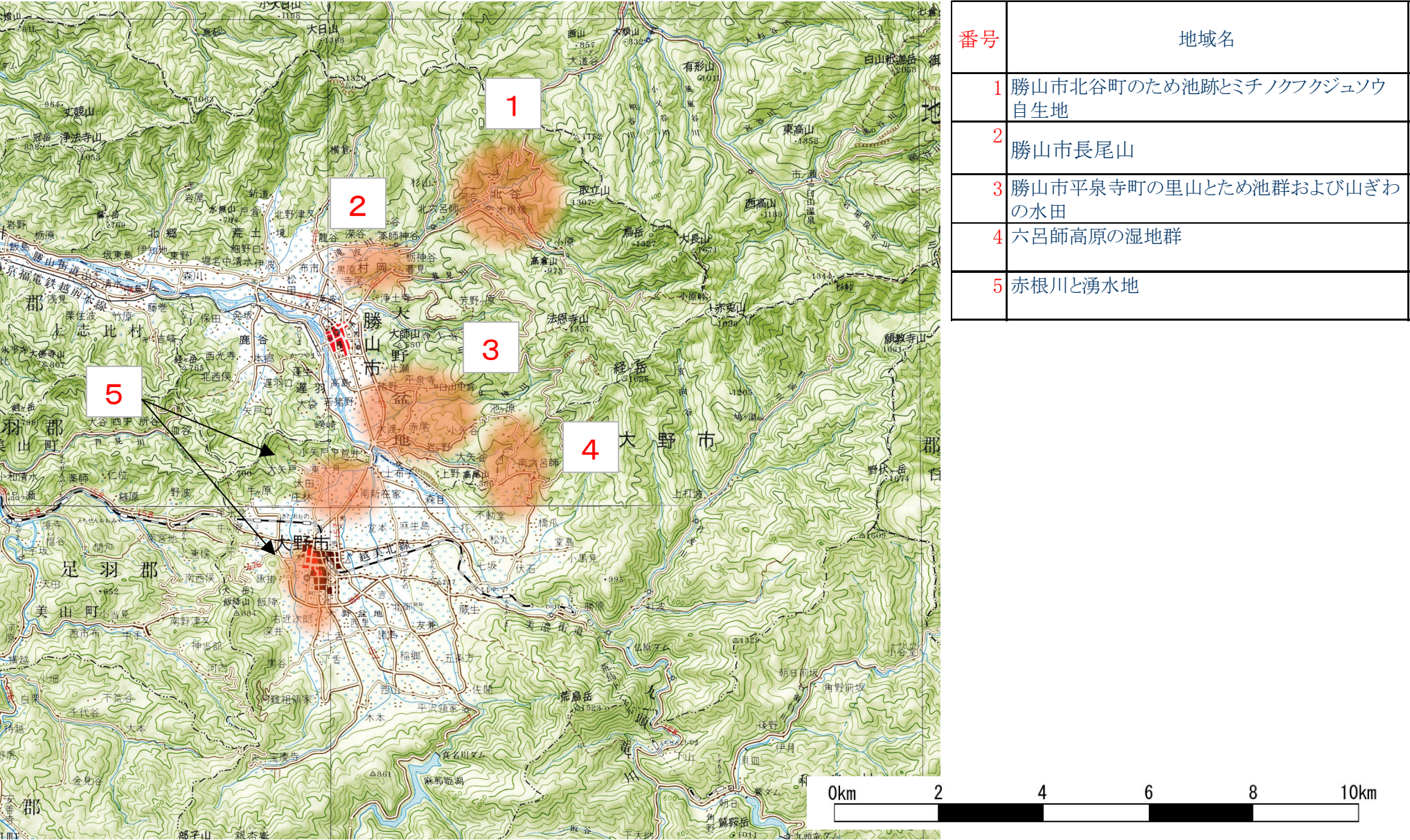
②河川環境や奥山地区など、里地里山に該当しない地区

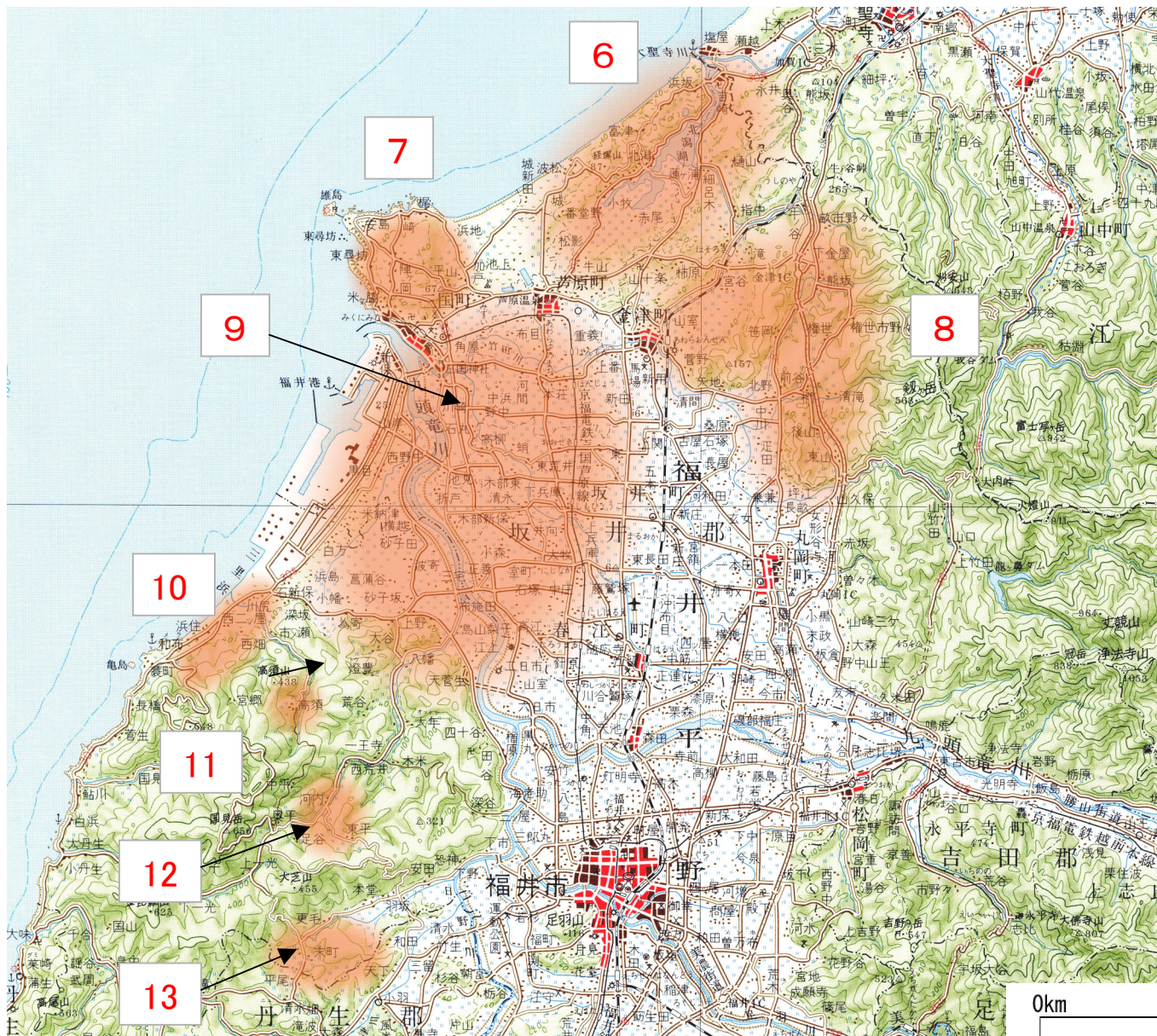
番号	地域名	選定基準(A・B-1・B-2・B-3)*	県RDB 種数	その他 指標種 数	面積	おもな生息・生育種	保全すべき環境の要素	市町村
1	勝山市北谷町のため池跡とミチノクフクジュソウ自生地	A、B-1(ミチノクフクジュソウ)	13	5	約40ha	ニホンリス、ミチノクフクジュソウ、ジュンサイ、モウセンゴケ、レンゲツツジ	陸域(草地)、水域(止水)、貧栄養湿地	勝山市
2	勝山市長尾山	A、B-1(サクラバハノキ)	10	6	約140ha	ニホンリス、オオタカ、ハチクマ、サンコウチョウ、サクラバハノキ	陸域(森林)(森林+草地)(裸地)、陸域+水域、水域(止水)、貧栄養湿地	勝山市
3	勝山市平泉寺町の里山とため池群および山ぎわの水田	A	34	13	約580ha	ムササビ、アオバズク、ゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、ジュンサイ	陸域(森林)(草地)、水域(止水)、貧栄養湿地	勝山市
4	六呂師高原の湿地群	A	53	10	約530ha	オオコオイムシ、コオイムシ、マルガタゲンゴロウ、モウセンゴケ、リンドウ	陸域(森林)(草地)、陸域+水域、水域(止水)、貧栄養湿地	大野市
5	赤根川と湧水地	A、B-1(バイカモ、アカヒレタビラ)	21	4	約160ha	ヨシガモ、アカヒレタビラ、陸封型イトヨ、バイカモ、ナガエミクリ	水域(流水)(止水)	大野市
6	北潟湖周辺のため池と丘陵辺縁部の水田	A	66	10	約1600ha	ヨシゴイ、ヨシガモ、メダカ、アオヤンマ、オグマサナエ	陸域(草地)、陸域+水域、水域(止水)	あわら市
7	三国町陣ヶ岡丘陵地周辺の池と湿地	A	34	4	約190ha	ホトケドジョウ、メダカ、ネアカヨシヤンマ、オオコオイムシ、ミズユキノシタ	水域(流水)(止水)	三国町
8	金津東部のため池群と山ぎわの水田	A	66	13	約2400ha	オシドリ、サシバ、ホトケドジョウ、ホシチャバネセセリ、ヒツジグサ	陸域(森林+草地)(草地)、陸域+水域、水域(止水)	あわら市
9	坂井平野の水田地帯	A、B-2(マガン、ヒシクイ)	68	10	約7200ha	コハクチョウ、マガン、オオヒシクイ、ホウロクシギ、メダカ	水域(止水)(流水+止水)	あわら市、坂井町、春江町、福井市
10	三里浜後背の山ぎわの水田と池	A	23	6	約310ha	カタハガイ、ジュンサイ、モウセンゴケ、リンドウ、ヤマトミクリ	陸域(草地)、陸域+水域、水域(止水)、貧栄養湿地	福井市
11	福井市高須山麓の棚田	A	13	2	約130ha	アオバズク、サシバ、アカショウビン、サンコウチョウ、シヤジクモ類	陸域(森林)(森林+草地)(裸地)、陸域+水域	福井市
12	福井市上郷地区の山ぎわの水田	A	14	11	約150ha	ムササビ、アオシギ、サシバ、サンコウチョウ、ハツチョウトンボ	陸域(森林)(森林+草地)、陸域+水域、水域(止水)	福井市

13	福井市末更毛川上流の山ぎわの水田とため池	A	41	12	約310ha	アオバズク、メダカ、ハッチョウトンボ、リンドウ、オオニガナ	陸域(草地)、陸域＋水域、水域(止水)、貧栄養湿地	福井市
14	織田町萩野地区のため池群と山ぎわの水田	A	26	9	約360ha	メダカ、キトンボ、ゲンゴロウ、コウホネ、ヒツジグサ	陸域＋水域、水域(止水)	織田町
15	丹生山地南部のため池群と山ぎわの水田	A	59	16	約5000ha	アベサンショウウオ、メダカ、ハッチョウトンボ、ゲンゴロウ、ヒツジグサ	陸域＋水域、水域(止水)、貧栄養湿地	織田町、宮崎村、武生市
16	三里山	A	29	6	約1000ha	アオバズク、サシバ、コサメビタキ、サンコウチョウ、エチゼンケマイマイ	陸域(森林)	鯖江市、今立町、武生市
17	武生市味真野地区の湧水地	A、B-1(バイカモ)、B-3(トミヨ)	16	3	約20ha	タマシギ、トミヨ、バイカモ	水域(流水)	武生市
18	敦賀市池河内湿原周辺の水田と小川	A	54	11	約80ha	サシバ、ホトケドジョウ、コウホネ、ヒメビシ、ミズオオバコ	陸域(森林＋草地)、水域(流水)(止水)	敦賀市
19	中池見湿地	A、B-2(ノジコ)、B-3(ナカイケミヒメテントウ)	60	8	約110ha	ノジコ、アブラボテ、ナカイケミヒメテントウ、デンジソウ、ヒメビシ	陸域(森林)(森林＋草地)、陸域＋水域、水域(流水)(止水)(流水＋止水)、貧栄養湿	敦賀市
20	野坂岳山麓の貧栄養湿地群とカヤ原	A	18	3	約160ha	エゾトンボ、ハッチョウトンボ、ジュンサイ、モウセンゴケ、センブリ	陸域(草地)、陸域＋水域、水域(止水)、貧栄養湿地	敦賀市
21	敦賀半島の貧栄養湿地群	A	31	7	約380ha	メダカ、ハッチョウトンボ、モウセンゴケ、リンドウ、ノハナショウブ	陸域(森林＋草地)(草地)、陸域＋水域、貧栄養湿地	敦賀市、美浜町
22	耳川上流のハンノキ林と山ぎわの水田	A、B-3(ヒラサナエ)	12	1	約70ha	ハッチョウトンボ、ヒラサナエ、モウセンゴケ、リンドウ、センブリ	陸域(草地)、陸域＋水域、貧栄養湿地	美浜町
23	菅湖および三方湖周辺の湿地、水田地帯	A	100	15	約460ha	ヒクイナ、ヤマシギ、タマシギ、ダルマガエル、メダカ	陸域(森林＋草地)(草地)、陸域＋水域、水域(止水)(止水＋流水)	
24	三方町黒田地区の水路と山ぎわの水田	A、B-1(ダルマガエル)	16	8	約130ha	タマシギ、チュウサギ、ダルマガエル、メダカ、マルタニシ	陸域(森林)(森林＋草地)(草地)、水域(止水)(流水＋止水)	三方町
25	三方町白屋地区のため池	A	17	2	約30ha	チュウサギ、シャジクモ類、ジュンサイ、ミズユキノシタ、ミズオオバコ	陸域(森林＋草地)、水域(止水)	三方町
26	小浜市口名田地区のため池と山ぎわの水田	A	17	5	約50ha	キトンボ、グンバイトンボ、ジュンサイ、ミズユキノシタ、ミズネコノオ	陸域＋水域、水域(止水)	小浜市
27	小浜市飯盛地区の山ぎわの水田	A	24	1	約120ha	ダルマガエル、キトンボ、グンバイトンボ、ホソミイトンボ、ミズオオバコ	陸域＋水域、水域(止水)	小浜市
28	大飯町本郷地区東部の山ぎわの水田	A	15	4	約50ha	ホソミイトンボ、ヒシ、ミズユキノシタ、ミズオオバコ、イトトリゲモ	陸域(森林＋草地)、陸域＋水域、水域(止水)(止水＋流水)	大飯町
29	高浜町子生川周辺のため池	A	13	2	約60ha	メダカ、エゾトンボ、ホソミイトンボ、コウホネ、ハンゲショウ	陸域＋水域、水域(止水)	高浜町
30	高浜町内浦地区西部のため池と棚田	A、B-3(フタスジサナエ、タガメ)	18	5	約210ha	サシバ、フタスジサナエ、タガメ、ホソバミズヒキモ、イトトリゲモ	陸域(森林＋草地)(草地)、陸域＋水域、水域(止水)	高浜町

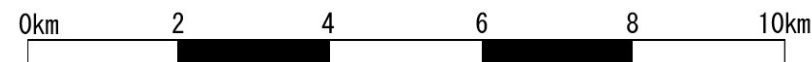
資料4 福井県重要里地里山」位置図

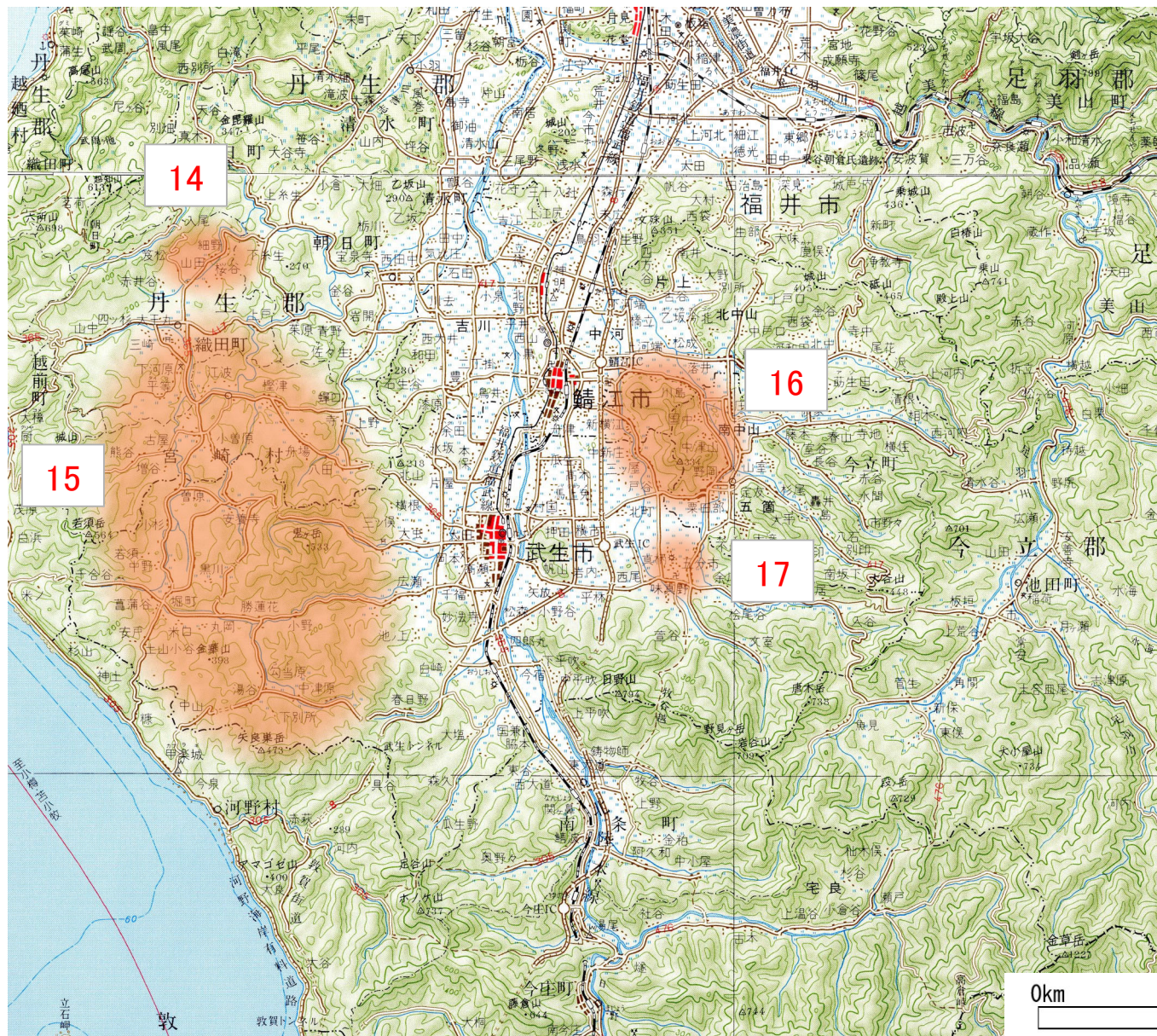
「福井県重要里地里山」位置図



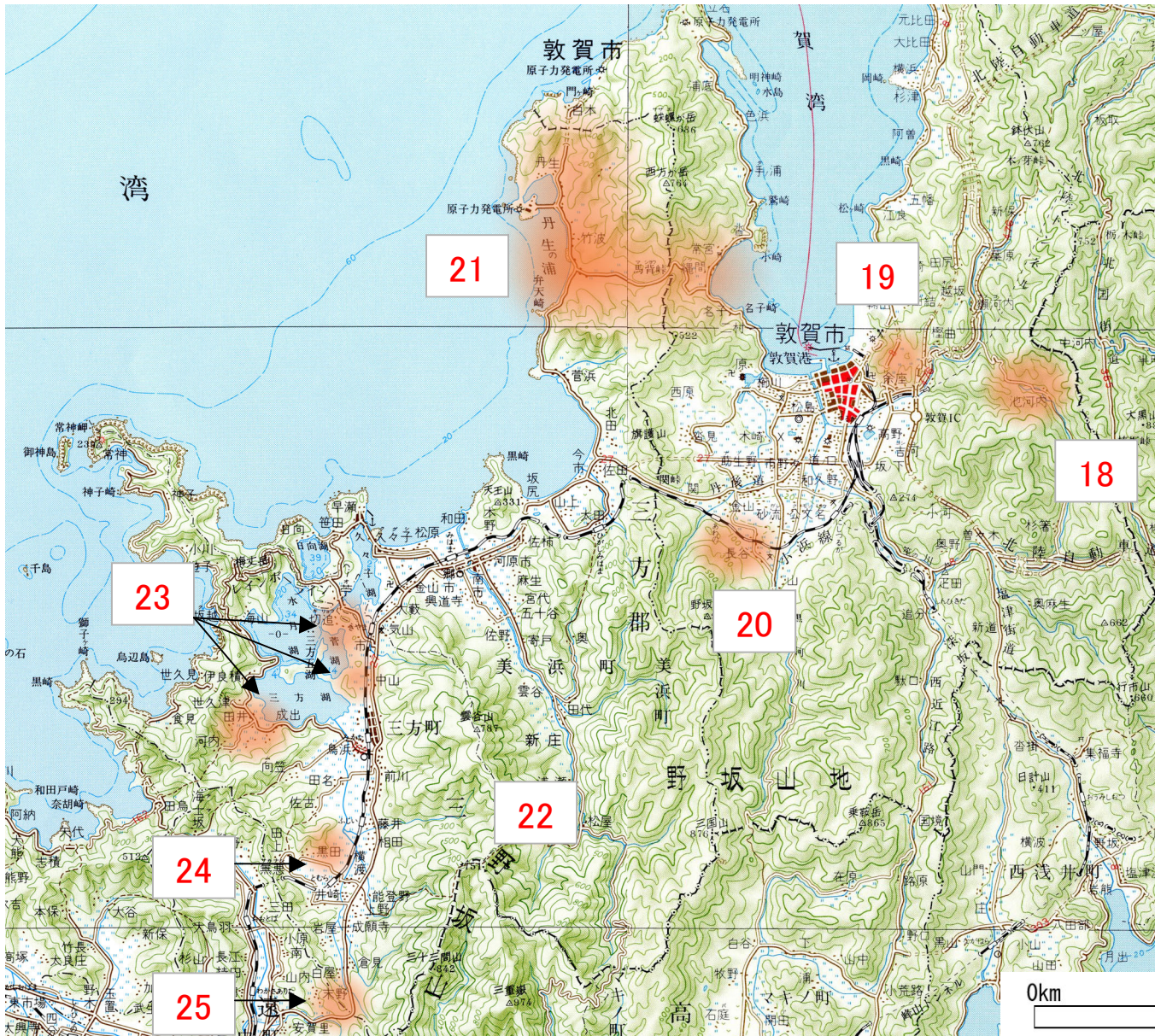


6	北潟湖周辺のため池と丘陵辺縁部の水田
7	三国町陣ヶ岡丘陵地周辺の池と湿地
8	金津東部のため池群と山ぎわの水田
9	坂井平野の水田地帯
10	三里浜背後の山ぎわの水田と池
11	福井市高須山山麓の棚田
12	福井市上郷地区の山ぎわの水田
13	福井市末更毛川上流の山ぎわの水田とため池

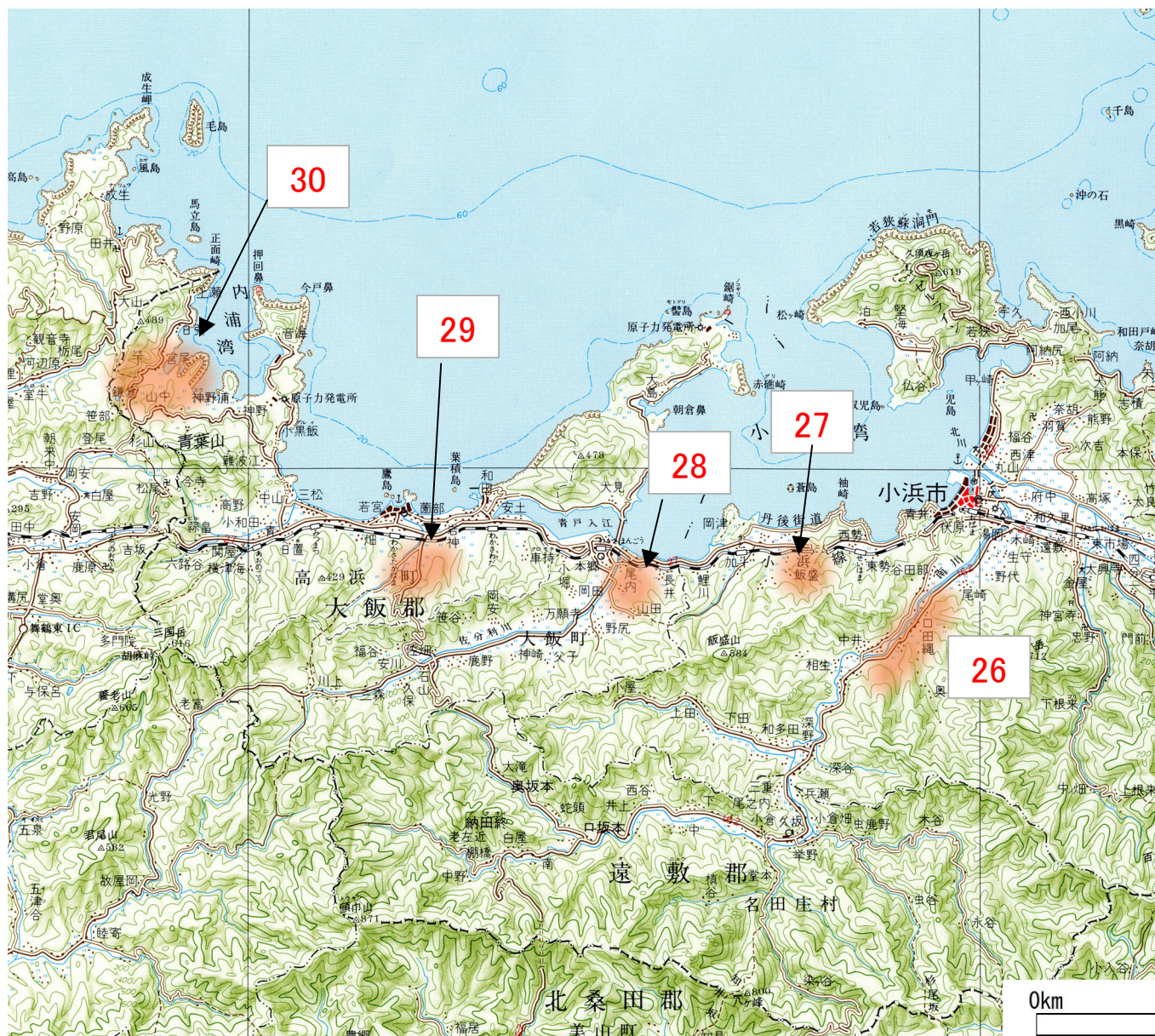




14	織田町萩野地区のため池群と山ぎわの水田
15	丹生山地南部のため池群と山ぎわの水田
16	三里山
17	武生市味真野地区の湧水地



18	敦賀市池河内湿原周辺の水田と小川
19	中池見湿地
20	野坂岳山麓の貧栄養湿地群とカヤ原
21	敦賀半島の貧栄養湿地群
22	耳川上流のハンノキ林と山ぎわの水田
23	菅湖および三方湖周辺の湿地、水田地帯
24	三方町黒田地区の水路と山ぎわの水田
25	三方町白屋地区のため池



26	小浜市口名田地区のため池と山ぎわの水田
27	小浜市飯盛地区の山ぎわの水田
28	大飯町本郷地区東部の山ぎわの水田
29	高浜町子生川周辺のため池
30	高浜町内浦地区西部のため池と棚田

資料5 「福井県重要里地里山」現地写真

1 勝山市北谷町のため池跡とミチノクフクジュソウ自生地





3 勝山市平泉寺町の里山とため池群および山ぎわの水田



4 六呂師高原の湿地群



5 赤根川と湧水地



6 北潟湖周辺のため池と丘陵辺縁部の水田



7 三国町陣ヶ岡丘陵地周辺の池と湿地



8 金津東部のため池群と山ぎわの水田



9 坂井平野の水田地帯



10 三里浜後背の池と山ぎわの水田



11 福井市高須山山麓の棚田



12 福井市上郷地区の山ぎわの水田



13 福井市未更毛川上流の山ぎわの水田とため池



14 織田町萩野地区のため池群と山ぎわの水田



15 丹生山地南部のため池群と山ぎわの水田





17 武生市味真野地区の湧水地



18 敦賀市池河内湿原周辺の水田と小川





20 野坂岳山麓の貧栄養湿地群とカヤ原



21 敦賀半島の貧栄養湿地群



22 耳川上流のハンノキ林と山ぎわの水田



23 菅湖および三方湖周辺の湿地、水田地帯



24 三方町黒田地区の水路と山ぎわの水田



25 三方町白屋地区のため池



26 小浜市口名田地区のため池と山ぎわの水田



27 小浜市飯盛地区の山ぎわの水田



28 大飯町本郷地区東部の山ぎわの水田



29 高浜町子生川周辺のため池



30 高浜町内浦地区西部のため池と棚田



参考文献

- 大澤・勝野(2000) 多摩丘陵におけるニホンアマガエル・ヤマアカガエルの樹林地利用 爬虫両棲類学会会報 2000(1):52.
- 金子ほか(1992) テレメトリー法によるアズマヒキガエルの繁殖後の分散に関する研究. 爬虫両棲類学雑誌 14(4):209.
- Kusano(1984) Dispersal of the Salamander, *Hynobius nebulosus tokyoensis*. journal of Herpetology 18(3):349-353.
- 三井ほか(2002) 農村地域における土地利用分布図に着目した生物生息環境の評価手法—兵庫県洲本市の事例—. 農村計画学会春期大会.
- 福井県(1999) 福井県のすぐれた自然(動物編). 福井県, 福井.
- 福井県(1999) 福井県のすぐれた自然(植物編). 福井県, 福井.
- 福井県(1999) 福井県のすぐれた自然(地形地質編). 福井県, 福井.
- 福井県(2002) 福井県の絶滅のおそれのある野生動物 2002 福井県レッドデータブック(動物編). 福井県, 福井.
- 福井県(2004) 福井県の絶滅のおそれのある野生植物 2004 福井県レッドデータブック(植物編). 福井県, 福井.
- 京都府(2003) 京都府レッドデータブック 2002 上巻, 京都府環境企画課, 京都
- 山口県(2002) レッドデータブックやまぐち. 山口県自然保護課, 山口
- 岐阜県(2001) 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 岐阜県レッドデータブック 2001 岐阜県, 岐阜.
- 愛知県植物誌調査会(1996) 植物からの SOS—愛知県の絶滅危惧植物. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.
- 佐竹義輔・大井次三郎ほか(1982) 日本の野生植物 I, 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・大井次三郎ほか(1982) 日本の野生植物 II, 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・大井次三郎ほか(1982) 日本の野生植物 III, 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・原寛ほか編(1989) 日本の野生植物木本 II, 平凡社, 東京
- 角野康郎(1994) 日本水草図鑑, 文一総合出版, 東京.
- 福井植物研究会(1998) 福井の野草(下), 橋本確文堂, 金沢.
- 環境省編(2002) 生物多様性国家戦略, ぎょうせい, 東京
- 環境省自然環境局生物多様性センター(2001) 生物多様性調査種の多様性調査集計等業務報告書: 都道府県委託調査集計結果(電子資料)
- 環境省自然環境局野生生物課(2002) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 1 [哺乳類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課(2002) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 2 [鳥類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 3 [爬虫類・両生類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課(2003) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 4 [汽水・淡水魚類], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 [植物 I (維管束植物)], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 [植物 II (維管束植物以外)], 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然環境局野生生物課(1991) 日本の絶滅のおそれのある野生生物 無脊椎動物編, 自然環境研究センター, 東京.

調査体制

(1) 調査委員会

部会	氏名	所属
鳥獣	上木泰男	日本野鳥の会福井県支部
	久保上宗次郎	猛禽類研究家
両・爬・無脊椎・魚類	長谷川巖	武生東小学校
	松田隆喜	丸岡高校
昆虫類	羽田義任	日本昆虫学会
	長田勝	福井市自然史博物館
	下野谷豊一	日本鱗翅目学会
	井上重紀	日本甲虫学会
	保科英人	福井大学
	和田茂樹	日本蜻蛉学会
植物	渡辺定路	福井市自然史博物館
	石本昭司	植物研究家

(2) 事務局

福井県自然保護課

岡本 光之
多田 雅充

福井県自然保護センター

西垣 正男
水谷 瑞希
平山 亜希子

福井県海浜自然センター

松村 俊幸

(3) 調査員（敬称略、五十音順）

油谷 誠，石田 惣，井尻 雅己，上坂 正夫，宇野 竜司，大橋 正明，岡 友章，奥野 宏，納村 力，香川 正行，笠羽 靖浩，加藤 文男，金田 俊晃，川内 一憲，神田 美奈子，岸本 修，北川 博正，櫛谷 知之，黒川 秀吉，黒田 明穂，小嶋 明男，小林 則夫，斉藤 寛昭，斉藤 昌弘，酒井 哲弥，柴田 泰彦，柴田 亮俊，鈴川 文夫，関岡 裕明，竹内 一介，武田 究，田埜 正，辻 義次，中林 喜悦，野坂 千津子，福岡 修，福田 健，藤井 豊，堀田 高久，堀田 雅貴，三原 学，室田 忠男，森 照代，森田 弘樹，八木 健爾，柳町 邦光，横山 大八，吉田 一朗，吉村 洋子

第6回 自然環境保全基礎調査

生物多様性調査

種の多様性調査（福井県）報告書

平成16(2004)年3月

環境省自然環境局 生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1

電話：0555-72-6033 FAX：0555-72-6035

業務名 平成15年度 生物多様性調査
種の多様性調査（福井県）委託業務

受託者 福井県
福井県福井市大手3丁目17-1